



下水道モニター

平成 30 年度 第2回アンケート結果

目 次

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
2.1 下水道の浸水対策について	2
2.1.1 下水道の浸水対策についての認知度	2
2.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認知度	2
2.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価	2
2.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見	2
2.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度	3
2.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの認知度	3
2.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度	3
2.2 家庭での浸水への対策について	3
2.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度	3
2.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路	3
2.2.3 「浸水対策強化月間」のイベントについて	4
2.2.4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路	4
2.2.5 家庭での浸水対策について	4
2.2.6 家庭での浸水対策の安全性	4
2.3 東京アメッシュについて	4
2.3.1 東京アメッシュの利用の有無	4
2.3.2 東京アメッシュの利用方法	5
2.3.3 東京アメッシュの利用頻度	5
2.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア	5
2.3.5 東京アメッシュを利用していない理由	5
3. 回答者属性	6

4. 集計結果	8
4.1 下水道の浸水対策について	8
4.1.1 下水道の浸水対策についての認知度	8
4.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度	13
4.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価	18
4.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見	23
4.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度	25
4.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの認識度	27
4.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度	29
4.2 家庭での浸水への対策について	31
4.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度	31
4.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路	33
4.2.3 「浸水対策強化月間」のイベントについて	37
4.2.4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路	38
4.2.5 家庭での浸水対策について	39
4.2.6 家庭での浸水対策の安全性	44
4.2.7 家庭での浸水対策の安全性に対する理由	45
4.3 東京アメッシュについて	49
4.3.1 東京アメッシュの利用の有無	49
4.3.2 東京アメッシュの利用方法	50
4.3.3 東京アメッシュの利用頻度	51
4.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア	52
4.3.5 東京アメッシュを利用していない理由	55

1. 調査の概要

(1) 調査目的

第2回アンケートでは、下水道の浸水対策・家庭での浸水対策についての認知度や評価、降雨に関する情報の利用方法などを把握するために実施した。

(2) 調査対象

①調査対象：東京都下水道局「平成30年度下水道モニター」

＊東京都在住20歳以上の男女個人

②調査対象の数：783名

③調査対象の抽出：インターネット上から「平成30年度下水道モニター」を募集

(3) 調査方法

インターネットによる自記式アンケート

(4) 回答回収率

モニター件数 : 783名

回答者数 : 567名

回答率 : 72.4%

(5) 調査項目

① 下水道の浸水対策

② 家庭での浸水への対策について

③ 東京アメッシュについて

(6) 調査期間

平成30年7月17日（火）～ 平成30年7月30日（月）

(7) 集計上・表記上への注意事項

① 本文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（%）は全て「n」を基数として算出している。また、比率を小数点第二位で四捨五入し「0.0%」となる項目については、グラフ上の表記を省略する。

② 本文中の性別、年代、地域、子供と同居有無別分析において、性別、年代、地域、子供と同居それぞれにおける「無回答」「不明」は省略する。

2. 結果の概要

2.1 下水道の浸水対策について

2.1.1 下水道の浸水対策についての認知度

下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」と「内容や意味を少し知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「3）雨水調整池の整備」が77.8%と最も高く、次いで「9）浸水予想区域図の公表」が75.3%、「5）大規模地下街対策」が66.2%となった。一方、「4）暫定貯留管の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」はそれぞれ48.1%、42.7%と低く、特に、「6）枝線の増径」は34.3%と最も低かった。

『認知度あり』を地区別にみると、「6）枝線の増径」、「8）雨水浸透ますの設置」以外は全て23区部の方が多摩地区に比べ高い結果となり、特に「2）ポンプ所の能力増強」、「7）増補管やバイパス管の整備」、「4）暫定貯留管の整備」、「1）浸水対策幹線の整備」で、23区部が多摩地区よりそれぞれ14.5ポイント、8.3ポイント、7.2ポイント、7.1ポイント高い結果となった。

2.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度

下水道の浸水対策のイメージとその具体的施策について、「良く理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』では、近年頻発する豪雨災害の対策として、メディア等で取り上げられる機会が多い「1）浸水対策幹線の整備」、「3）雨水調整池の整備」、「8）雨水浸透ますの設置」、「9）浸水予想区域図の公表」といった施策は、29年度と同様に85%以上と認識度が高かった。一方、メディア等で取り上げられる機会が少ない「5）大規模地下街対策」は80.6%、「4）暫定貯留管の整備」は80.9%と、全ての施策で8割を超える高い傾向となった。

『理解できた』を男女別にみると、全体的に、男性に比べ女性の理解度が高い傾向がみられた。中でも、「10）地下室・半地下室における注意喚起」は差が5.6ポイントと最も大きく、次いで「6）枝線の増径」が、4.1ポイント差となった。

2.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価

下水道の浸水対策のイメージと具体的施策について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』では、「1）浸水対策幹線の整備」が89.4%と最も高く、次いで「2）ポンプ所の能力増強」が88.3%、「3）雨水調整池の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」が同じく86.9%となった。

『有効である』を男女別にみると、全体的に女性の評価が高い傾向にあり、特に「9）浸水予想区域図の公表」では、男性に比べ、女性は10.7ポイント高い結果となった。認知度、認識度は男性の方が高かったが、各浸水対策の詳細を知っていただいたことで、女性の方がより高い評価をいただく結果となったものと考ええる。

2.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見

下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見について、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が90.8%となった。

男女別にみると、『そう思う』との回答は、男性が91.3%、女性が90.1%となり、男性と女性で顕著な差は見られなかった。

2.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

豪雨対策下水道緊急プランの認知度について、「知っていた」が9.9%、「知らなかった」が90.1%となり、プランの認知度は非常に低いことが明らかとなった。

年代別では、「知っていた」では70歳以上が20.9%と最も高く、次いで20歳代が19.2%、60歳代が12.0%となった。

2.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの認識度

豪雨対策下水道緊急プランの認識度について、「とても理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』が72.0%となった。

年代別にみると、『理解できた』では70歳以上が83.5%と最も高く、次いで60歳代が77.0%、50歳代が75.6%となった。最も低い20歳代でも61.6%と6割を超える結果となった。

2.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

豪雨対策下水道緊急プランの期待度について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』は77.2%であった。

年代別にみると、『有効である』では70歳以上が83.6%と最も高く、次いで60歳代が83.0%、20歳代が80.2%となった。

2.2 家庭での浸水への対策について

2.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

「浸水対策強化月間」の認知度について、「内容や意味を知っている」と「少しは内容や意味を知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』は42.0%となり、5割未満であった。

年代別にみると、『認知度あり』では20歳代を除き、年齢が高くなるにつれ割合も高くなっており、70歳以上では64.2%と6割を超えた高い結果となった。

2.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路

「浸水対策強化月間」の認知経路について、「東京都や東京都下水道局の広報誌」が49.2%と最も高く、次いで「東京都下水道局のホームページ」が26.9%、「東京都のホームページ」が25.6%となった。

年代別にみると、認知経路の中で「東京都下水道局のホームページ」との回答は、50歳代が38.5%で最も高く、次いで20歳代及び30歳代の33.3%となった。「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は70歳以上が最も高く72.1%、次いで60歳代の61.5%となっており、年代が上がるとともに、紙媒体への依存度が高くなる傾向が見られた。

2.2.3 「浸水対策強化月間」のイベントについて

「浸水対策強化月間」のイベントについて、「参加したことがある」は 3.7%、「イベントが開催されていることは知っているが、参加したことはない」は 25.4%、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 70.9%となり、イベントへの参加率は非常に低いことが明らかとなった。

年代別にみると、「参加したことがある」の割合が最も高かったのは 20 歳代だったが、割合は 11.6%だった。また、「イベントが開催されていることは知っているが、参加したことはない」は年代の上昇とともに高く、70 歳以上は 46.3%であり、年代によって、参加率は低いもののイベントの認知度は約 5 割あることがわかった。一方、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 30 歳代が 89.6%と最も高い結果となり、若い年代への周知方法の改善が重要な課題であると考えられた。

2.2.4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路

「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について、「東京都下水道局のホームページ」が 48.5%と最も高く、次いで「モニターメールマガジン」が 37.0%、「東京都下水道局のメールマガジン」が 27.3%となっており、メールマガジンやホームページなど局の電子媒体による PR 手段が効果を出していることが明らかとなった。

年代によらず、認知経路で最も高い割合を示したのは、受動的に送られてくる「モニターメールマガジン」ではなく、自ら積極的に閲覧しなければいけない「東京都下水道局のホームページ」だった。特に 70 歳以上で「東京都下水道局のホームページ」との回答が 54.5%と最も高く、ホームページは年代の高い方々へも浸透しているものと考えられた。

2.2.5 家庭での浸水対策について

家庭での浸水対策について、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が 48.7%と最も高く、次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が 36.7%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が 25.0%となった。一方、「この中でやっているものはない」の回答も 27.0%あった。

男女別にみると、男女ともに回答率が高かったのは「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」で、男性が 46.8%、女性が 51.0%と女性が男性より 4.2 ポイント高かった。次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が男性で 22.8%、女性で 27.0%となり、女性が男性より 4.2 ポイント高い結果となった。

2.2.6 家庭での浸水対策の安全性

家庭での浸水対策の安全性について、「安全だと思う」と「たぶん安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』は 73.1%で、多くのご家庭で浸水対策への認識は高いことが明らかとなった。

男女別にみると、『安全だと思う』では男性が 75.0%、女性が 71.0%となり、男性が女性より 4.0 ポイント高い結果となった。

2.3 東京アメッシュについて

2.3.1 東京アメッシュの利用の有無

東京アメッシュの利用の有無について、『利用している』が 47.6%、「利用してみたが、今は利用していない」と「利用していない」を合わせた『利用していない』が 52.4%となった。

男女別にみると、『利用している』では男性が 52.9%、女性が 41.2%と、男性が女性より 11.7 ポイント高い結果となった。

2.3.2 東京アメッシュの利用方法

東京アメッシュの利用方法について、「パソコン版」が 47.0%、「スマートフォン版」が 27.4%、「パソコン版とスマートフォン版」が 25.6%となり、パソコン版の利用が多いことが明らかとなった。

年代別にみると、「パソコン版」の利用は、年代の上昇とともに高くなり、特に 70 歳以上は 71.4%と最も高く、次いで 60 歳代が 63.8%となった。「スマートフォン版」では 40 歳代が 38.2%と最も高くなっており、次いで 20 歳代と 30 歳代がともに 33.3%という結果になり、年代の若い層では「スマートフォン版」の利用が多いことが明らかとなった。

2.3.3 東京アメッシュの利用頻度

東京アメッシュの利用頻度について、「週に 1 回未満」が 37.4%と最も高く、次いで「週に 2 ～ 4 回」が 24.8%、「週に 1 回」が 23.7%、「週に 5 回以上（ほぼ毎日）」が 14.1%となった。

年代別にみると、どの年代も利用頻度は同様の傾向を示したが、30 歳代では利用頻度が極端に少ないことが明らかとなった。

2.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

東京アメッシュのGPS活用アイデアについて、「地点登録」の割合が 12.2%と最も高く、次いで、「雲の動きを見ている」が 11.9%となった。また、「その他」が 20.7%であった。

2.3.5 東京アメッシュを利用していない理由

東京アメッシュを利用していない理由について、「別の気象情報を使用している」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「利用方法がわからない」が 24.2%、「必要性が無い」が 10.4%となった。

男女別にみると、「別の気象情報を使用している」では男性が 50.3%、女性が 52.6%となり、男女間で顕著な差は見られなかった。

3. 回答者属性

第2回モニターアンケートは、平成30年7月17日（火）から7月30日（月）までの14日間で実施した。その結果、567名の方から回答があった。（回答率72.4%）

■ 回答者数（性別、年代別、職業別、地区別）

性別	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
男性	312	420	74.3%	55.0%
女性	255	363	70.2%	45.0%
合計	567	783	72.4%	100.0%

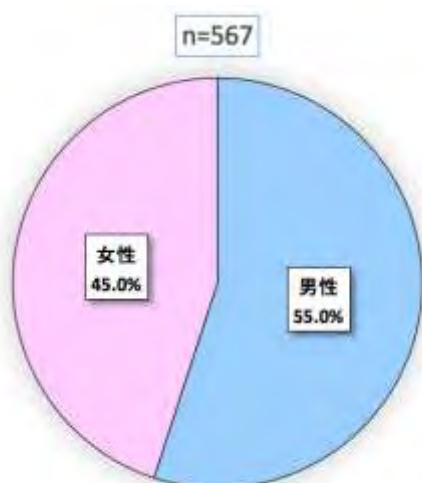
年代	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
20歳代	26	44	59.1%	4.6%
30歳代	77	117	65.8%	13.6%
40歳代	182	250	72.8%	32.1%
50歳代	115	161	71.4%	20.3%
60歳代	100	131	76.3%	17.6%
70歳以上	67	80	83.8%	11.8%
合計	567	783	72.4%	100.0%

地域	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
23区部	339	468	72.4%	59.8%
多摩地区	228	315	72.4%	40.2%
合計	567	783	72.4%	100.0%

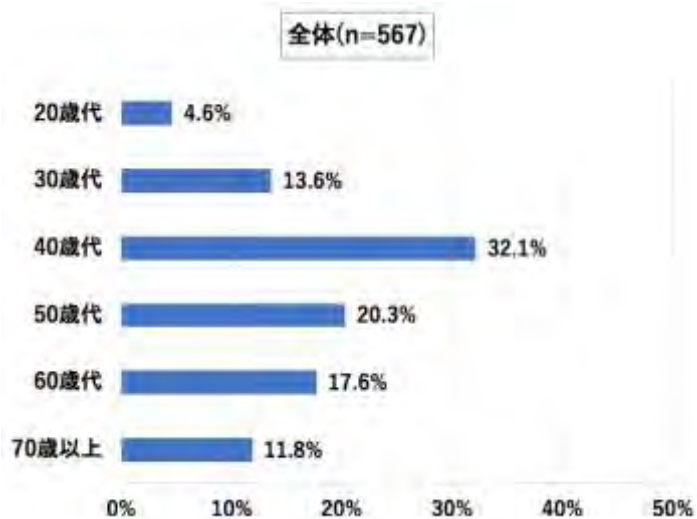
職業	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
会社員	248	338	73.4%	43.7%
自営業	39	56	69.6%	6.9%
学生	10	12	83.3%	1.8%
私立学校教員・塾講師	7	12	58.3%	1.2%
パート	44	75	58.7%	7.8%
アルバイト	14	19	73.7%	2.5%
専業主婦	106	143	74.1%	18.7%
無職	79	97	81.4%	13.9%
その他	20	31	64.5%	3.5%
合計	567	783	72.4%	100.0%

■ 回答者属性別グラフ

<性別>



<年代別>



<地区別>



<職業別>



4. 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。

4.1 下水道の浸水対策について

4.1.1 下水道の浸水対策についての認知度

- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「3）雨水調整池の整備」が 77.8％と最も高く、次いで「9）浸水予想区域図の公表」が 75.3％、「5）大規模地下街対策」が 66.2％となった。一方、「4）暫定貯留管の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」はそれぞれ 48.1％、42.7％と低く、特に、「6）枝線の増径」は 34.3％と最も低かった。
- ◆ 『認知度あり』を男女別にみると、全体的に、男性の認知度が高い傾向となっており、男女間の差は「2）ポンプ所の能力増強」で 16.1 ポイント、「1）浸水対策幹線の整備」で 13.9 ポイント、「8）雨水浸透ますの設置」で 12.6 ポイント、「4）暫定貯留管の整備」で 10.5 ポイントという順で大きい結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を年代別にみると、どの対策も年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られる一方、ほぼ全ての対策で 30 代の認知度が最も低い結果となった。また、対策ごとにみると、「3）雨水調整池の整備」は多くの世代で認知度が高く、特に 60 歳代が 90.0％と最も高く、次いで 70 歳以上が 83.6％、50 歳代が 80.0％となり、20 代でも 76.9％と高い結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を地区別にみると、「6）枝線の増径」、「8）雨水浸透ますの設置」以外は全て 23 区部の方が多摩地区に比べ高い結果となり、特に「2）ポンプ所の能力増強」、「7）増補管やバイパス管の整備」、「4）暫定貯留管の整備」、「1）浸水対策幹線の整備」で、23 区部が多摩地区よりそれぞれ 14.5 ポイント、8.3 ポイント、7.2 ポイント、7.1 ポイント高い結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を経年比較でみると、今年度の結果は全体的に、平成 29 年度調査と比較すると、認知度は減少傾向となった。特に平成 29 年度から調査が始まった「5）大規模地下街対策」では 4.0 ポイント減少した。一方、「9）浸水予想区域図の公表」では、今年度の結果は平成 29 年度調査に比べて 4.3 ポイント増加しており、浸水予想区域図への関心が高まっていることが示唆された。

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

Q 5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についておうかがいします。以下のそれぞれの取組について、あなたはこのことをご存知でしたか？各取組の右にある選択肢から一つだけお選び下さい。
(単一回答)

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

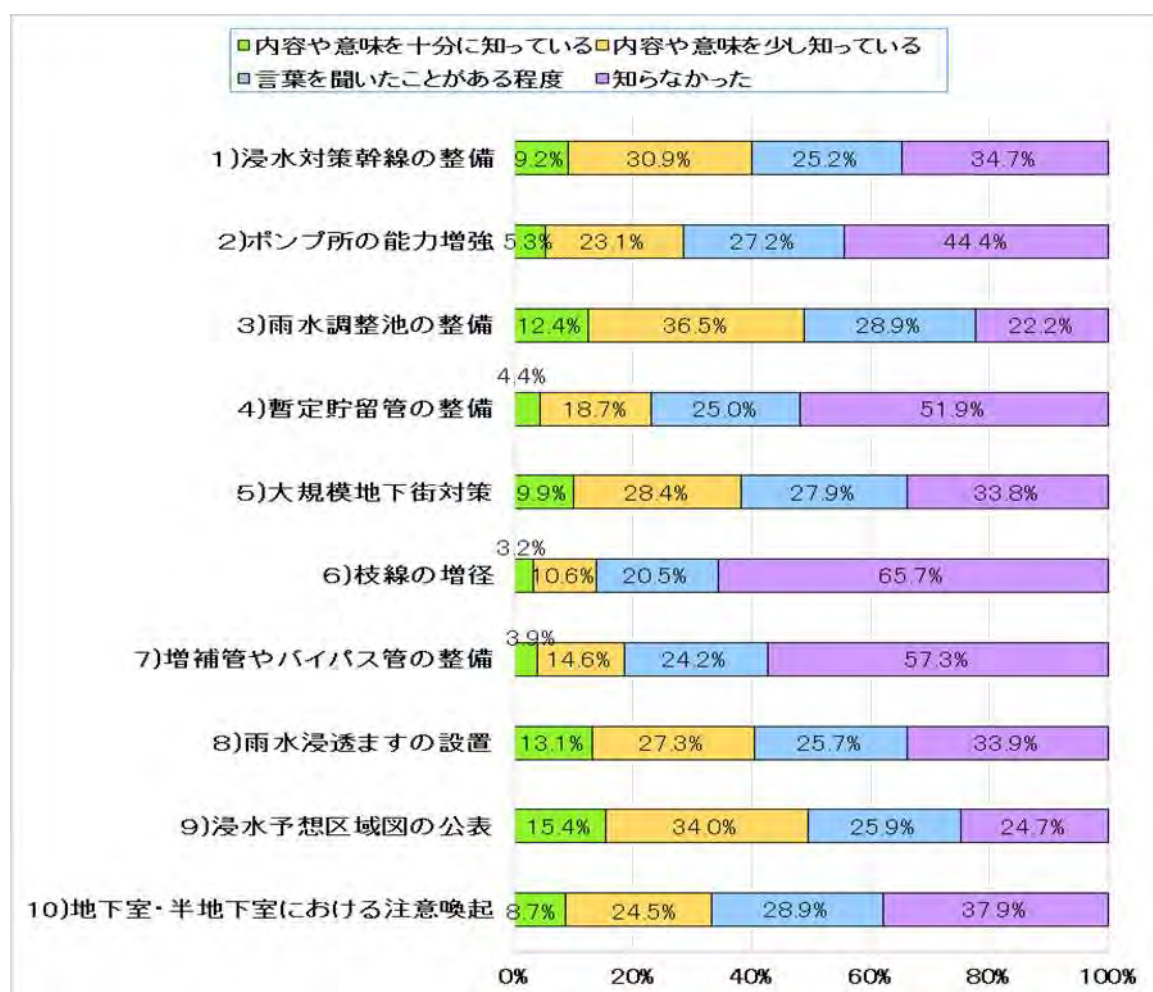
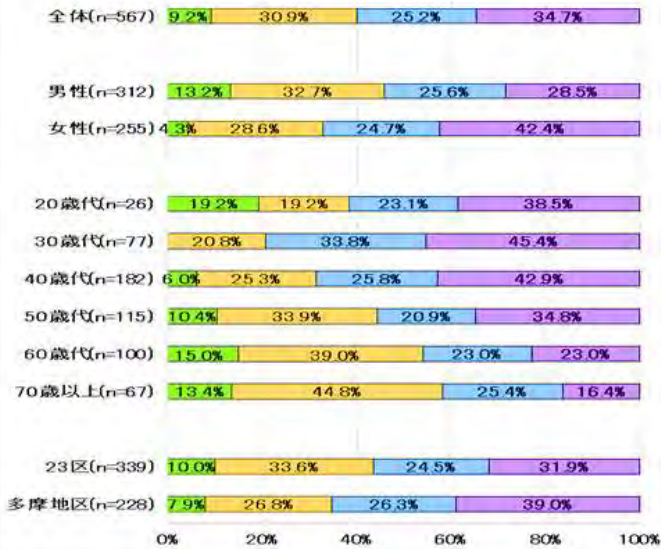


図 4 - 1 - 1 下水道の浸水対策についての認知度

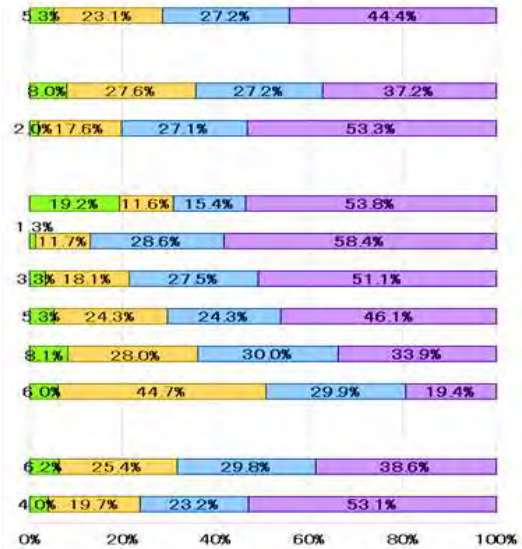
1) 浸水対策幹線の整備

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



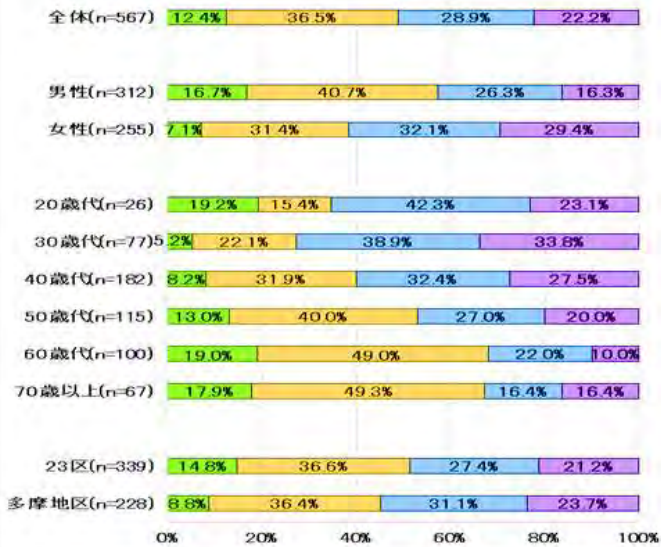
2) ポンプ所の能力増強

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



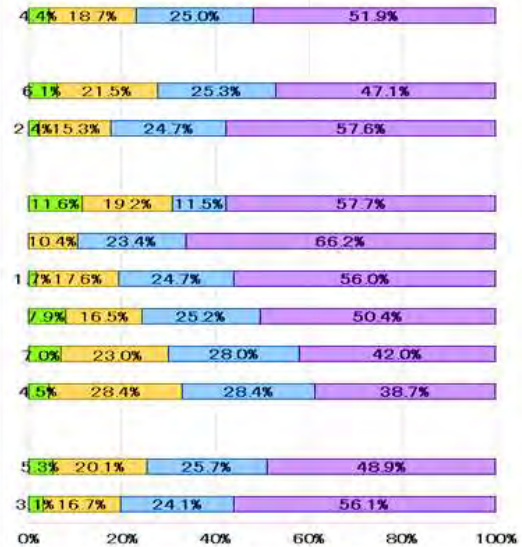
3) 雨水調整池の整備

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



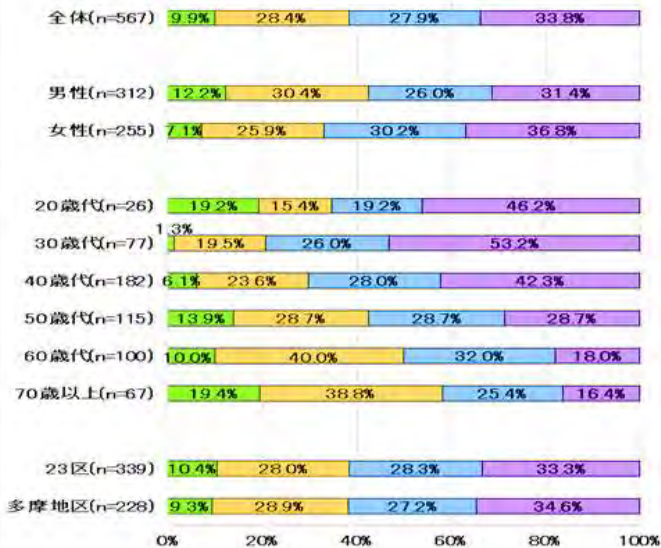
4) 暫定貯留管の整備

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



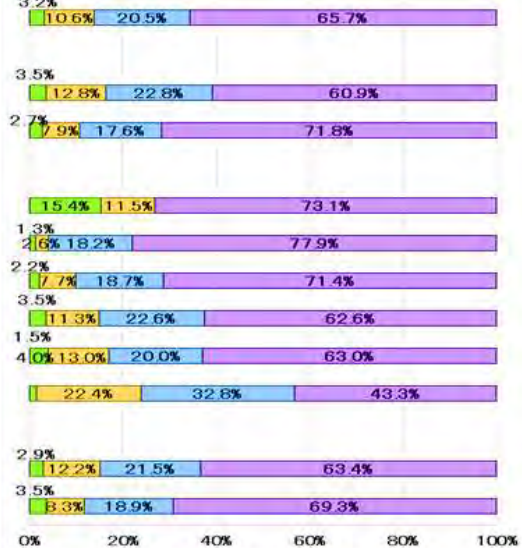
5) 大規模地下街対策

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



6) 枝線の増径

☐ 内容や意味を十分に知っている ☐ 内容や意味を少し知っている
☐ 言葉を聞いたことがある程度 ☐ 知らなかった



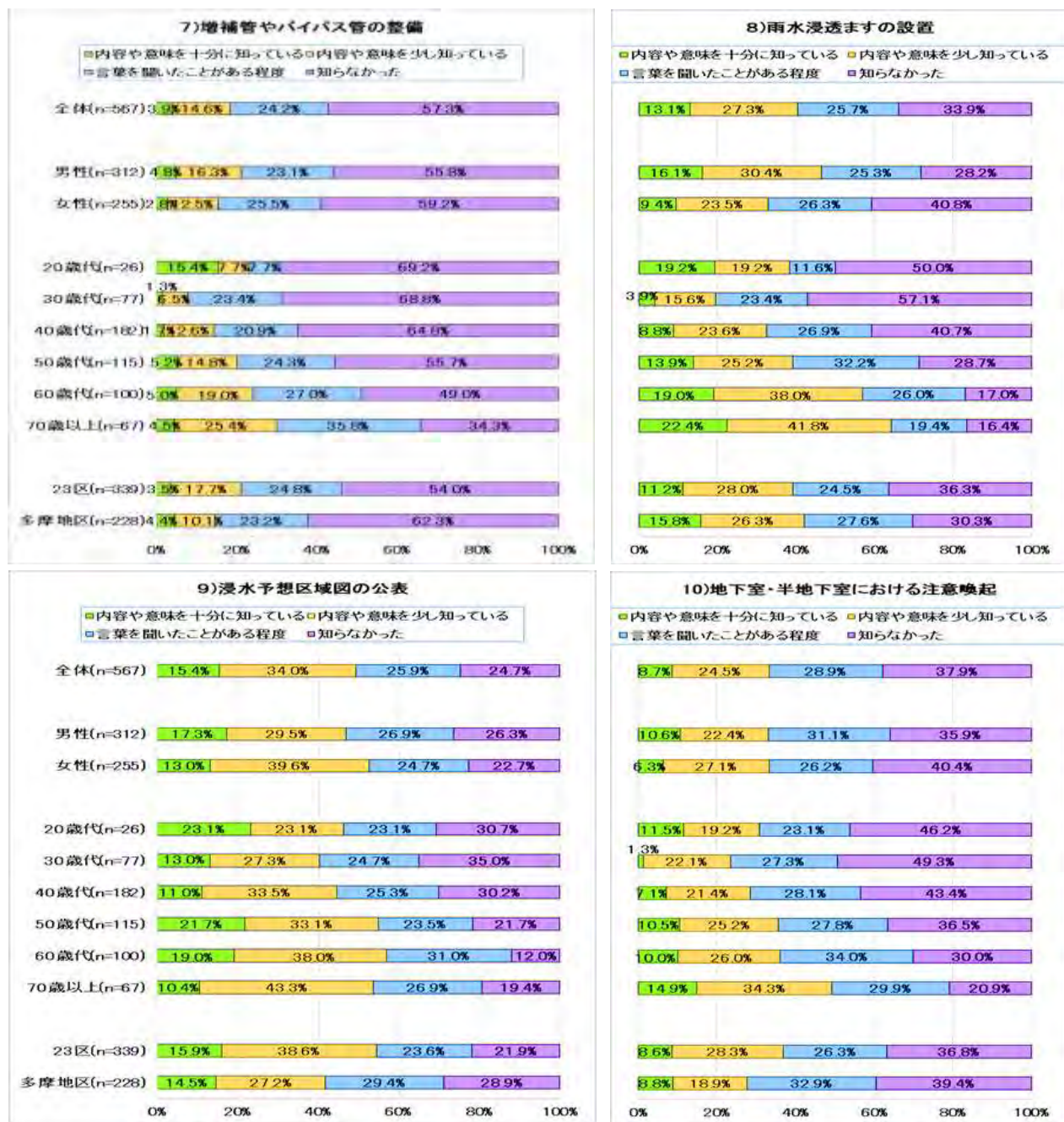


図4-1-1-1 下水道の浸水対策についての認知度（性別・年代別・地区別）

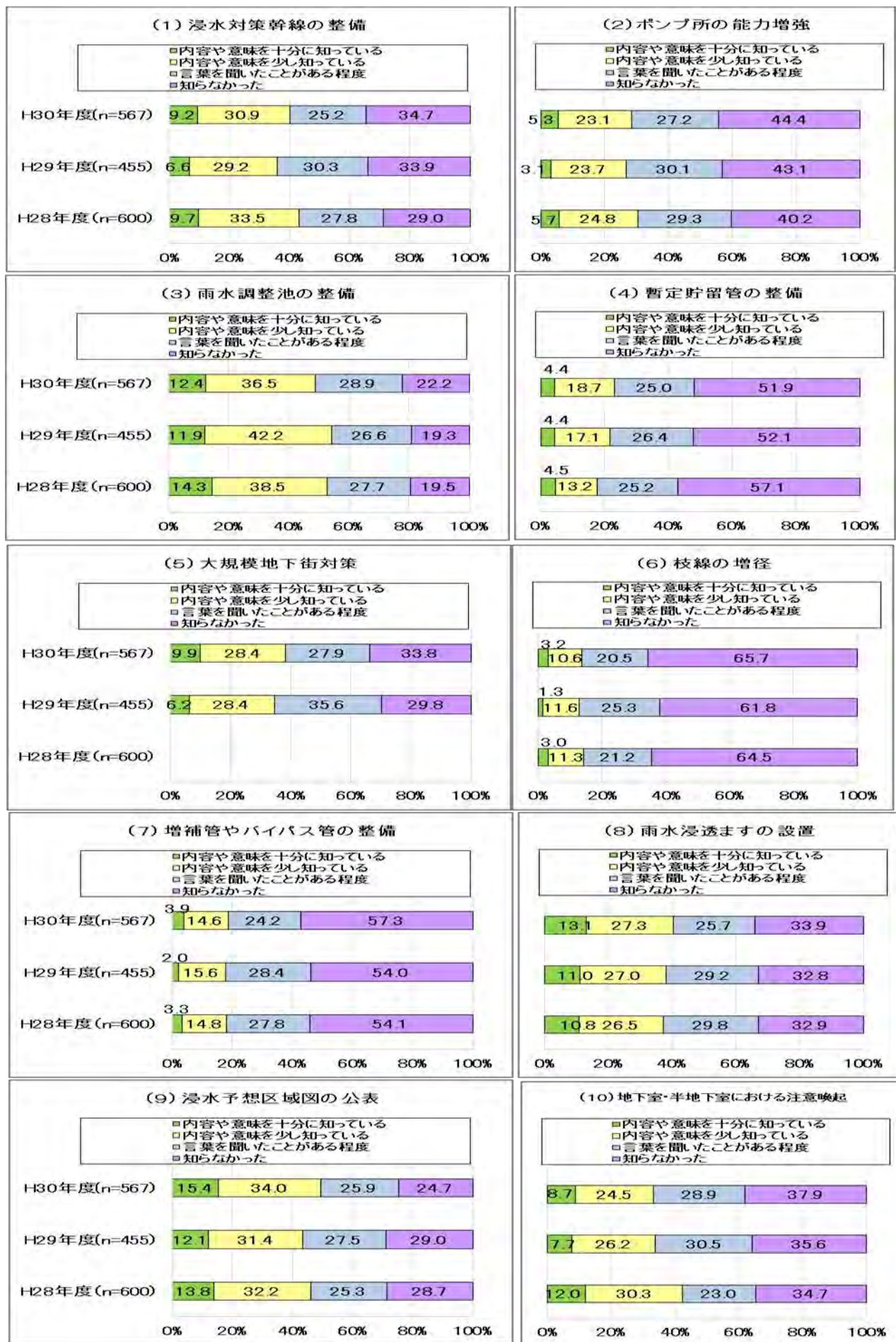


図 4-1-1-2 下水道の浸水対策についての認知度（経年比較）

4.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度

- ◆ 下水道の浸水対策のイメージとその具体的施策について、「良く理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』では、近年頻発する豪雨災害の対策として、メディア等で取り上げられる機会が多い「1)浸水対策幹線の整備」、「3)雨水調整池の整備」、「8)雨水浸透ますの設置」、「9)浸水予想区域図の公表」といった施策は、29年度と同様に85%以上と認識度が高かった。一方、メディア等で取り上げられる機会が少ない「5)大規模地下街対策」で80.6%、「4)暫定貯留管の整備」で80.9%と、全ての施策で8割を超える高い傾向となり、浸水対策については非常に関心の高いことが明らかとなった。
 - ◆ 『理解できた』を男女別にみると、全体的に、男性に比べ女性の理解度が高い傾向がみられた。中でも、「10)地下室・半地下室における注意喚起」は差が5.6ポイントと最も大きく、次いで「6)枝線の増径」が、4.1ポイント差となった。
 - ◆ 『理解できた』を年代別にみると、70歳以上が各対策ともにほぼ8割を超える高い認識度を示した。中でも、「1)浸水対策幹線の整備」は94.0%、「2)ポンプ所の能力増強」、「3)雨水調整池の整備」、「8)雨水浸透ますの設置」はそれぞれ92.5%と9割を超える高い結果となった。一方、他の年代をみると、20歳代では「8)雨水浸透ますの設置」が76.9%と最も高く、30歳代では「3)雨水調整池の整備」、「9)浸水予想区域図」がともに88.3%、40歳代では「5)大規模地下街対策」が88.0%、50歳代、60歳代では「3)雨水調整池の整備」がそれぞれ90.5%、94.0%と最も高い結果となり、世代により違いが見られた。
 - ◆ 『理解できた』を地区別にみると、「8)雨水浸透ますの設置」は多摩地区が87.7%、23区部が84.3%となり、多摩地区が23区部より3.4ポイント高かったが、他の多くの施策では地区別での大きな違いは見られなかった。
 - ◆ 経年比較でみると、ほぼ全ての施策で、平成29年度の『理解できた』は、28年度に比べ低下傾向にあったが、今年度は平成29年度に比べ上昇傾向であった。中でも、「4)暫定貯留管の整備」、「1)浸水対策幹線の整備」、「2)ポンプ所の能力増強」はそれぞれ、平成29年度に比べ本年度は3.4ポイント、3.3ポイント、3.2ポイント高い結果となった。
-

Q 6 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただき、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの認識度をお答えください。(単一回答)

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

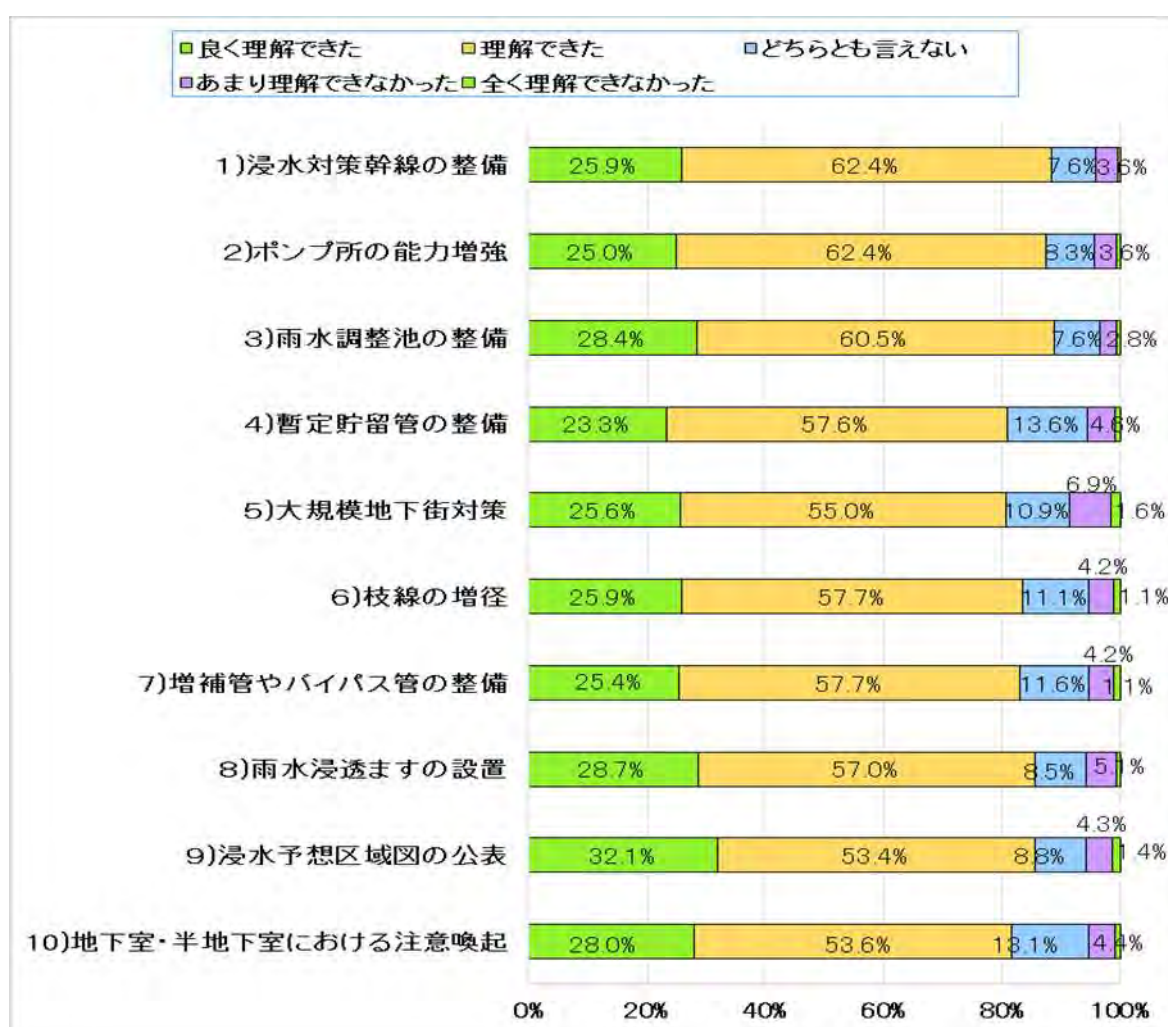
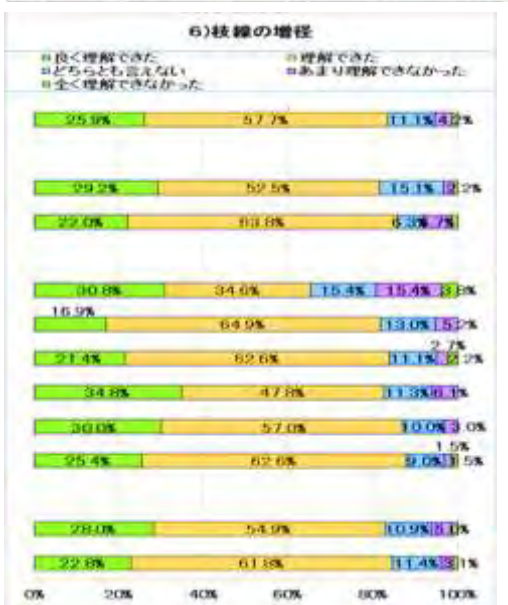
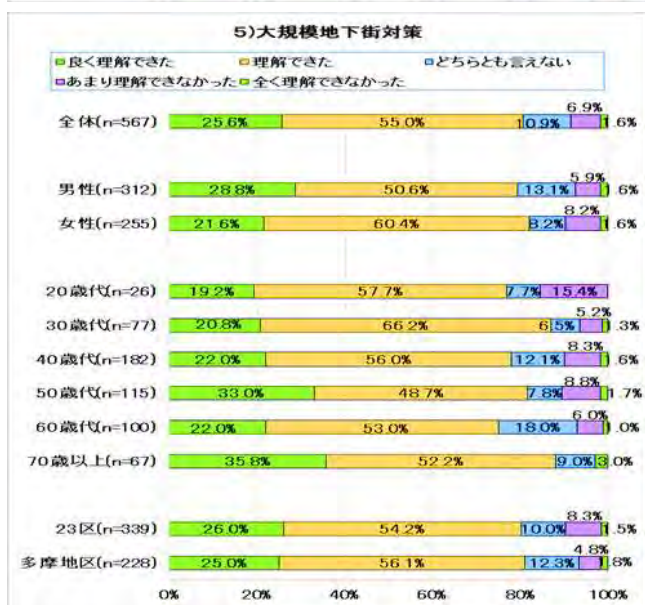
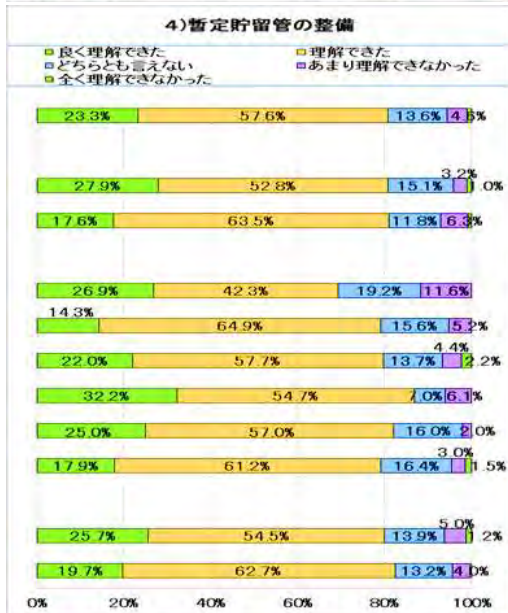
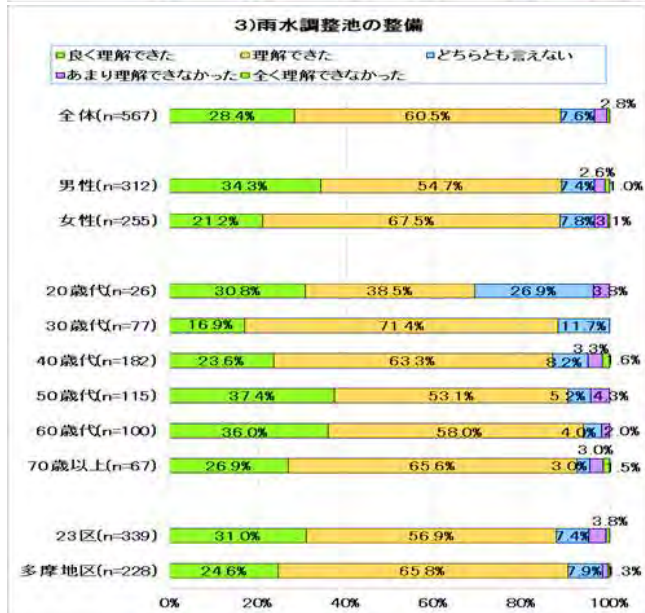
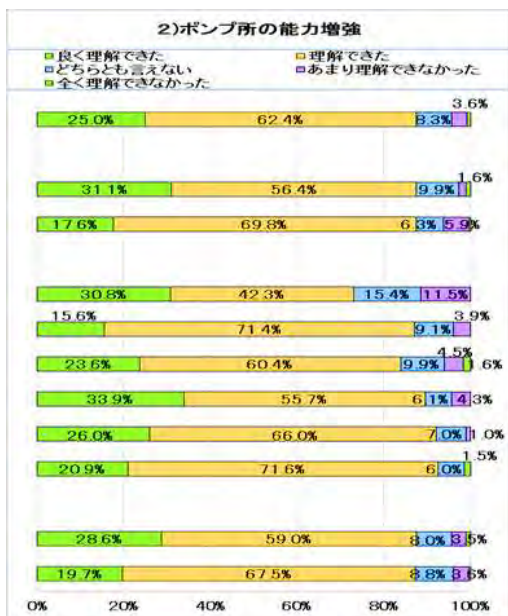
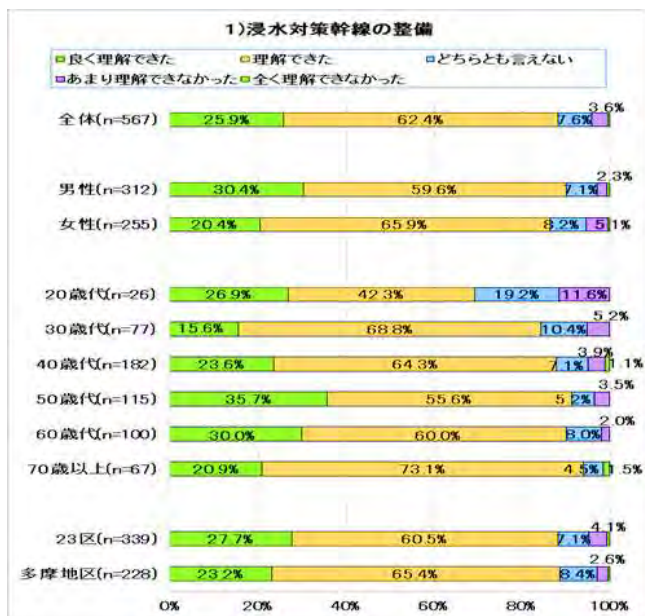


図 4-1-2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度



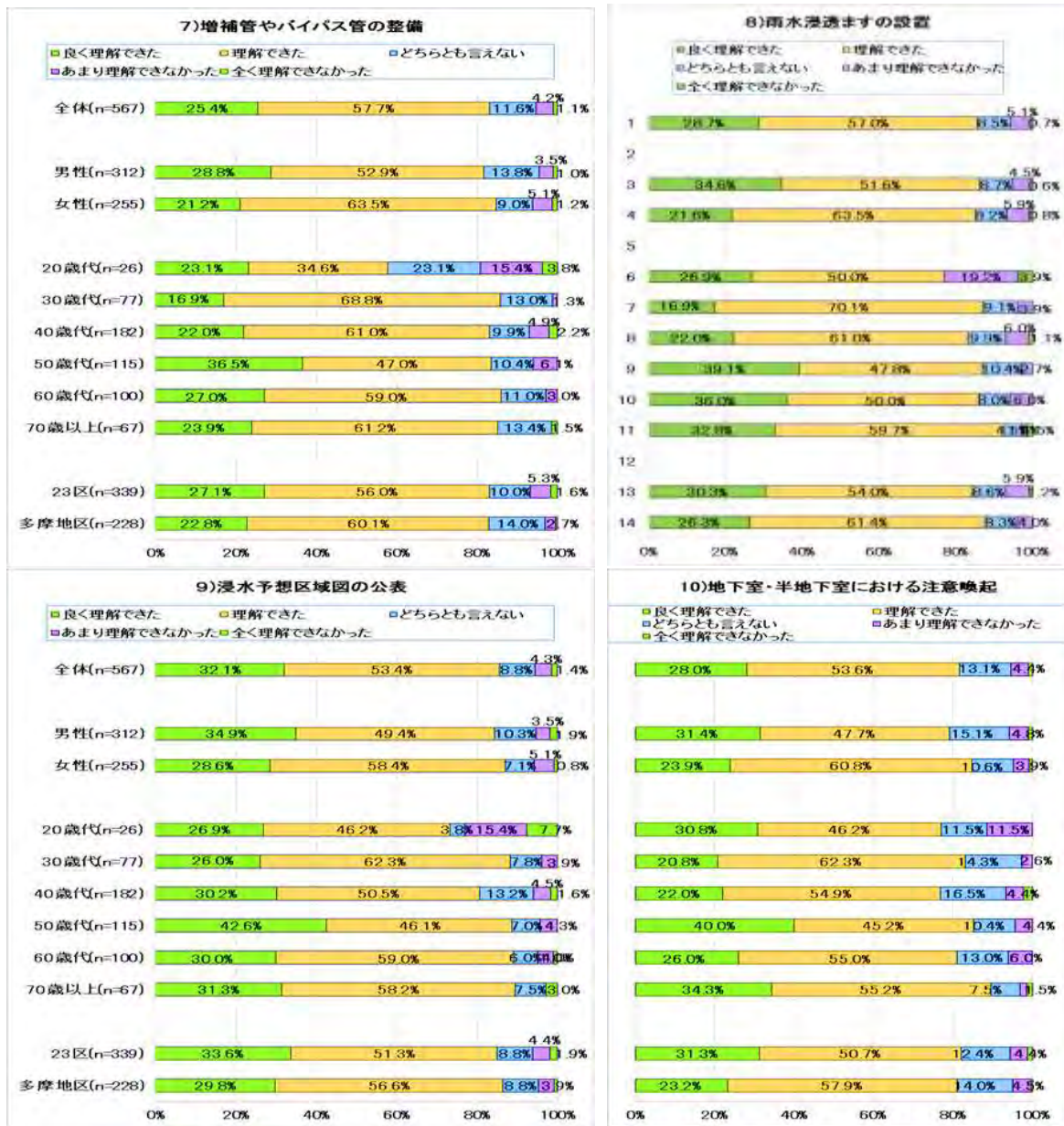


図4-1-2-1 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度（性別・年代別・地区別）



図4-1-2-2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての認識度（経年比較）

4.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価

- ◆ 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』では、「１）浸水対策幹線の整備」が 89.4%と最も高く、次いで「２）ポンプ所の能力増強」が 88.3%、「３）雨水調整池の整備」、「７）増補管やバイパス管の整備」が同じく 86.9%となった。
 - ◆ 『有効である』を男女別にみると、全体的に女性の評価が高い傾向にあり、特に「９）浸水予想区域図の公表」では、男性に比べ、女性は 10.7 ポイント高い結果となった。認知度、認識度は男性の方が高かったが、各浸水対策の詳細を知っていただいたことで、女性の方がより高い評価をいただく結果となった。各施策について、性別によらず広くアピールする方法を再考する必要があると示唆された。
 - ◆ 『有効である』を年代別にみると、全体的にどの施策も年代の上昇とともに評価が高くなる傾向があった。中でも、「１）浸水対策幹線の整備」、「２）ポンプ所の能力増強」、「３）雨水調整池の整備」、「７）増補管やバイパス管の整備」は 50 歳代から 70 歳以上で評価が高かったが、特に「１）浸水対策幹線の整備」では、70 歳以上が 94.0%と最も高く、次いで 60 歳代が 93.0%と 9 割を超える高い結果となった。
 - ◆ 『有効である』を地区別にみると、最もポイント差が大きかった「６）枝線の増径」でも 4.1 ポイントであり、全体的に地区による大きな違いは見られなかった。
 - ◆ 『有効である』を経年比較でみると、どの施策の評価も、今年度は平成 29 年度調査に比べ大きな変化は見られなかったが、「極めて有効である」のポイントが微増した施策が多かった。
-

Q 7 上記Q 6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の軽減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

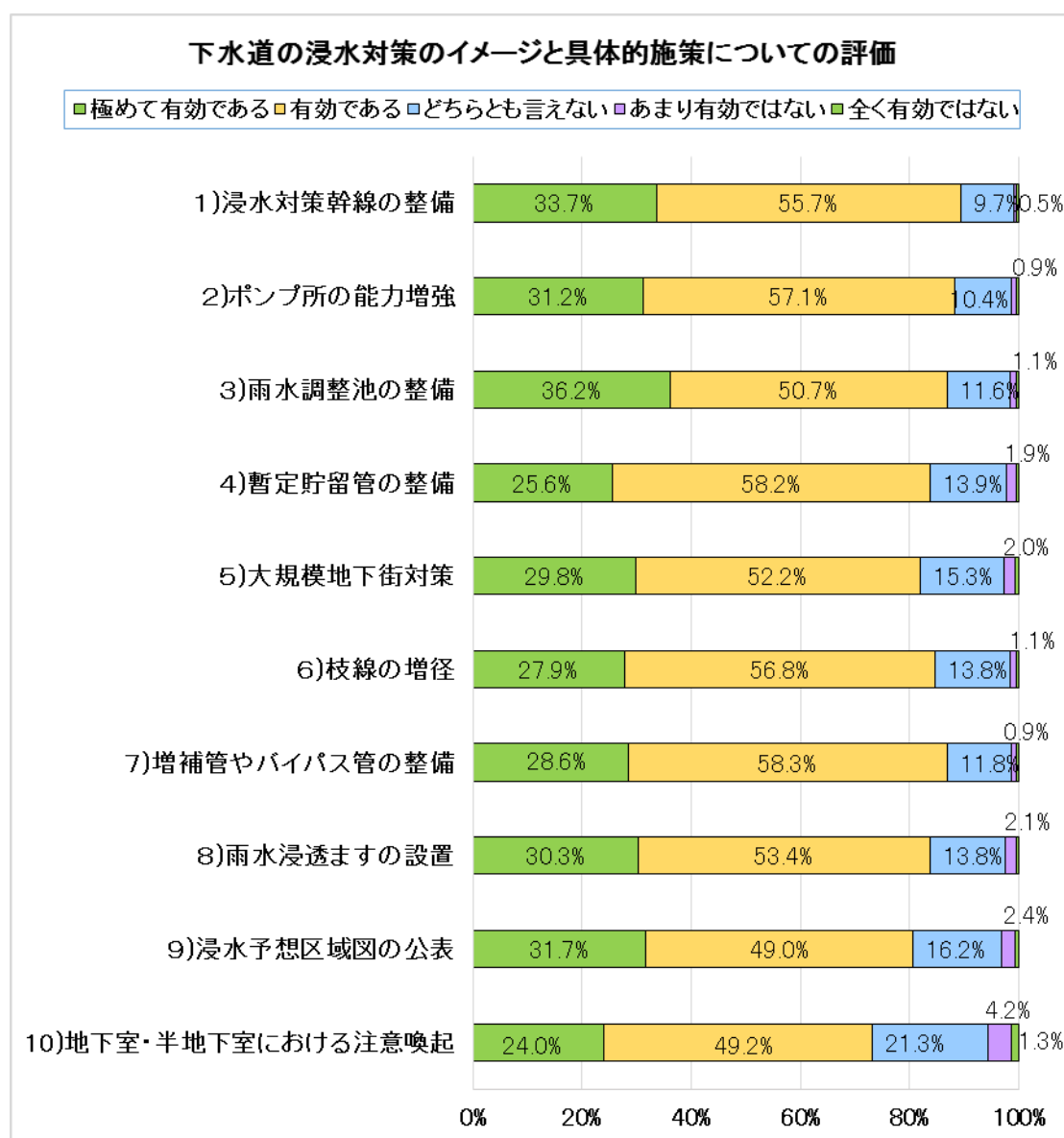
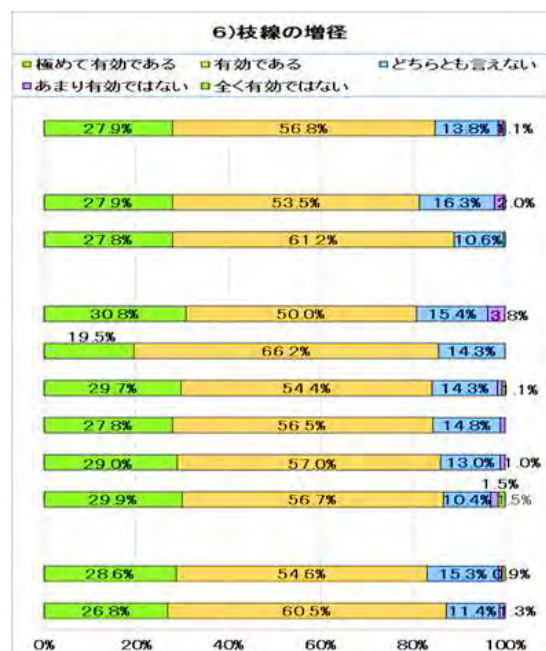
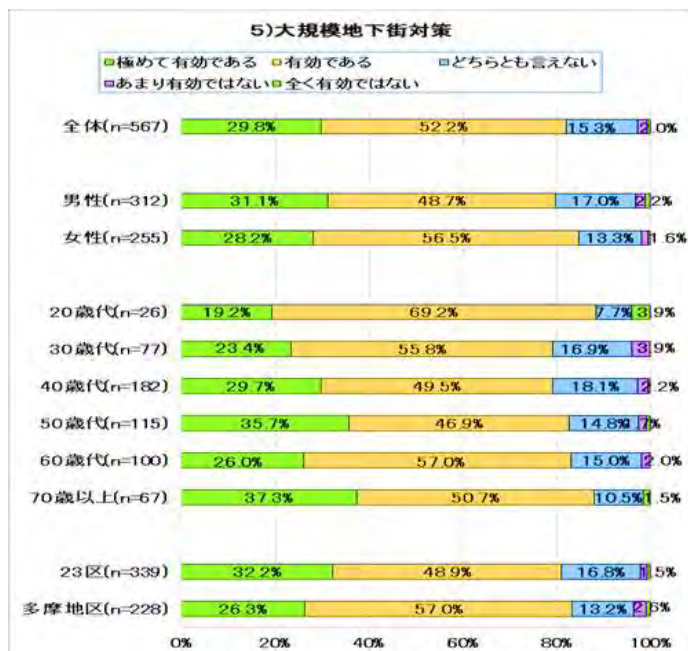
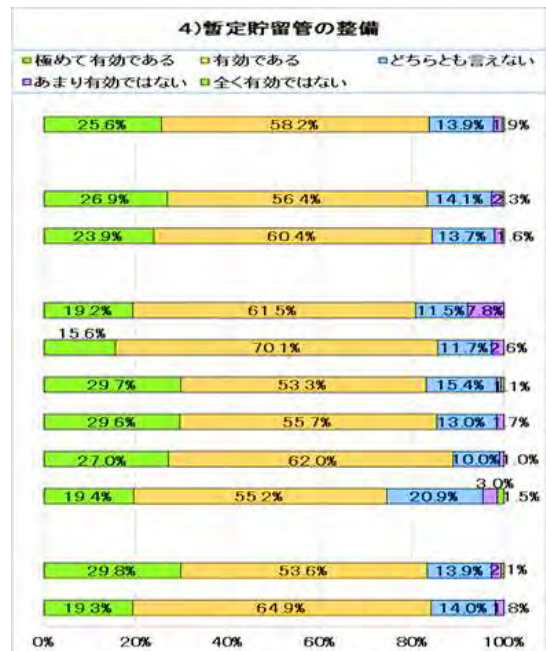
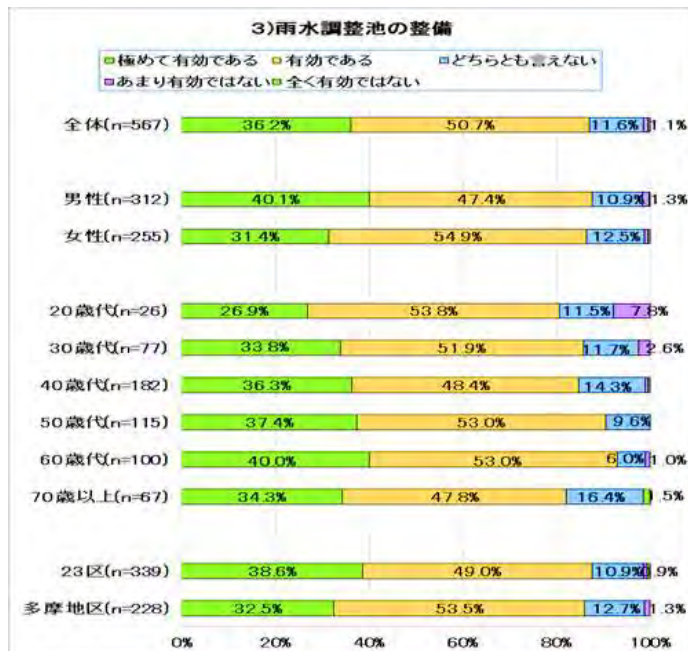
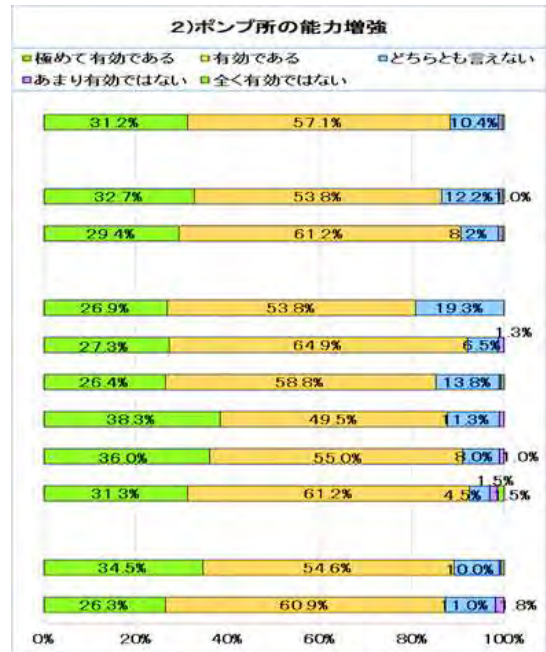
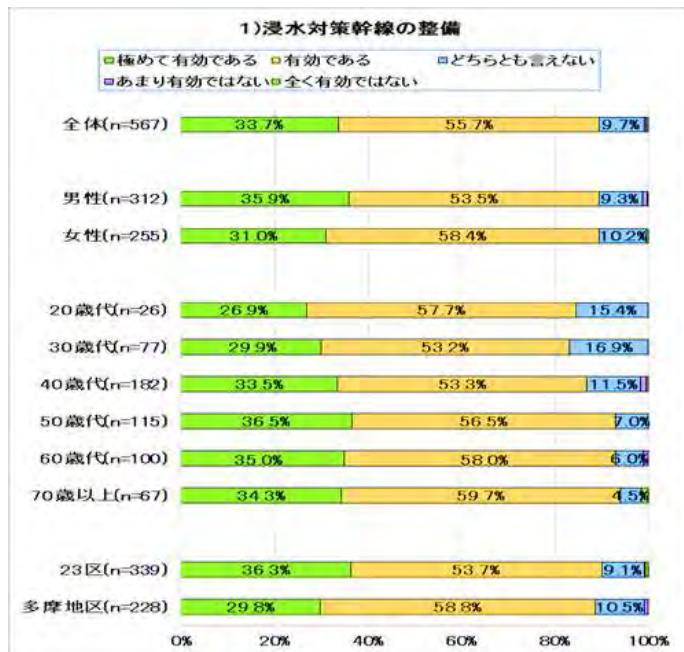


図 4-1-3 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価



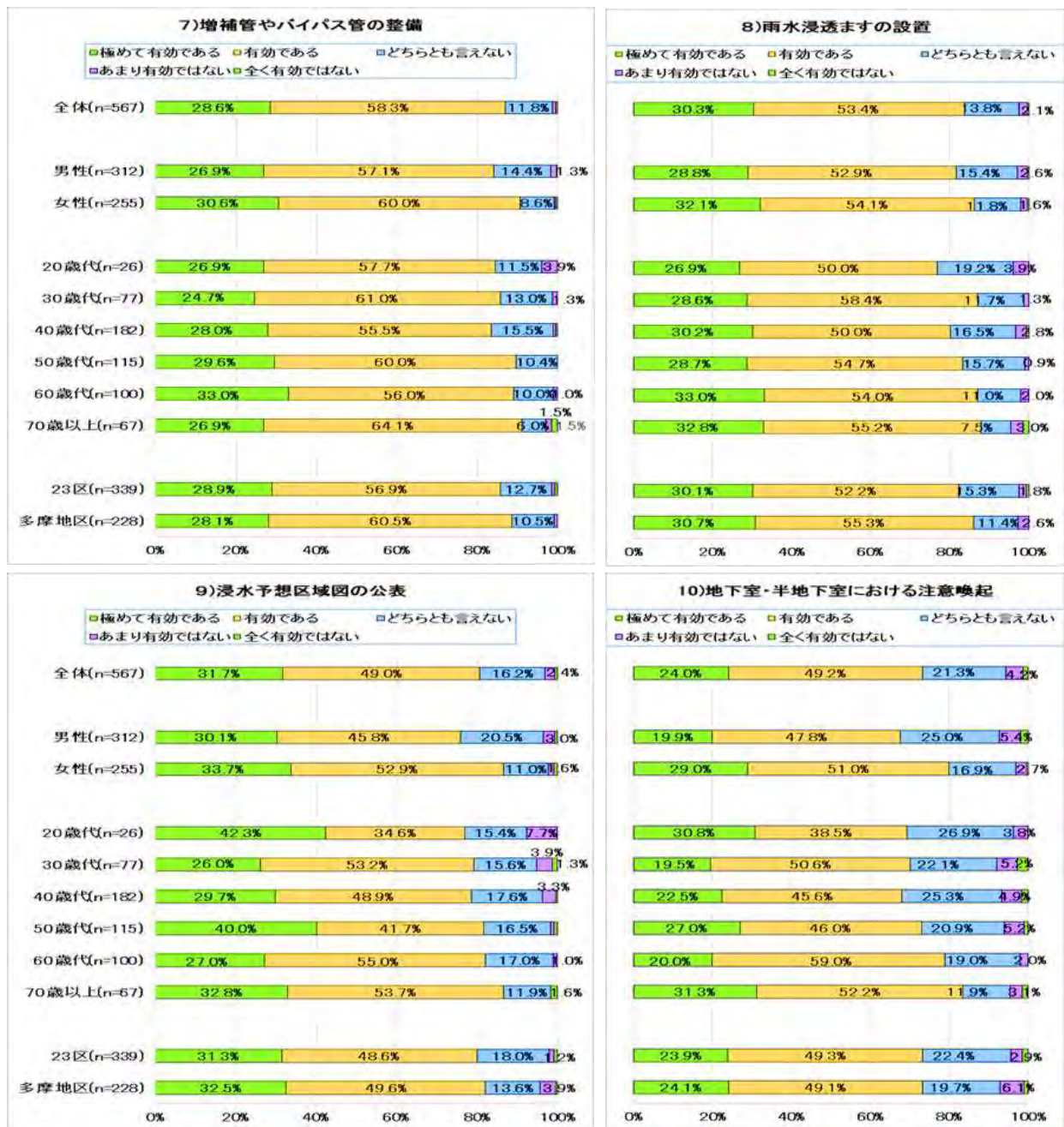


図4-1-3-1 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（性別・年代別・地区別）

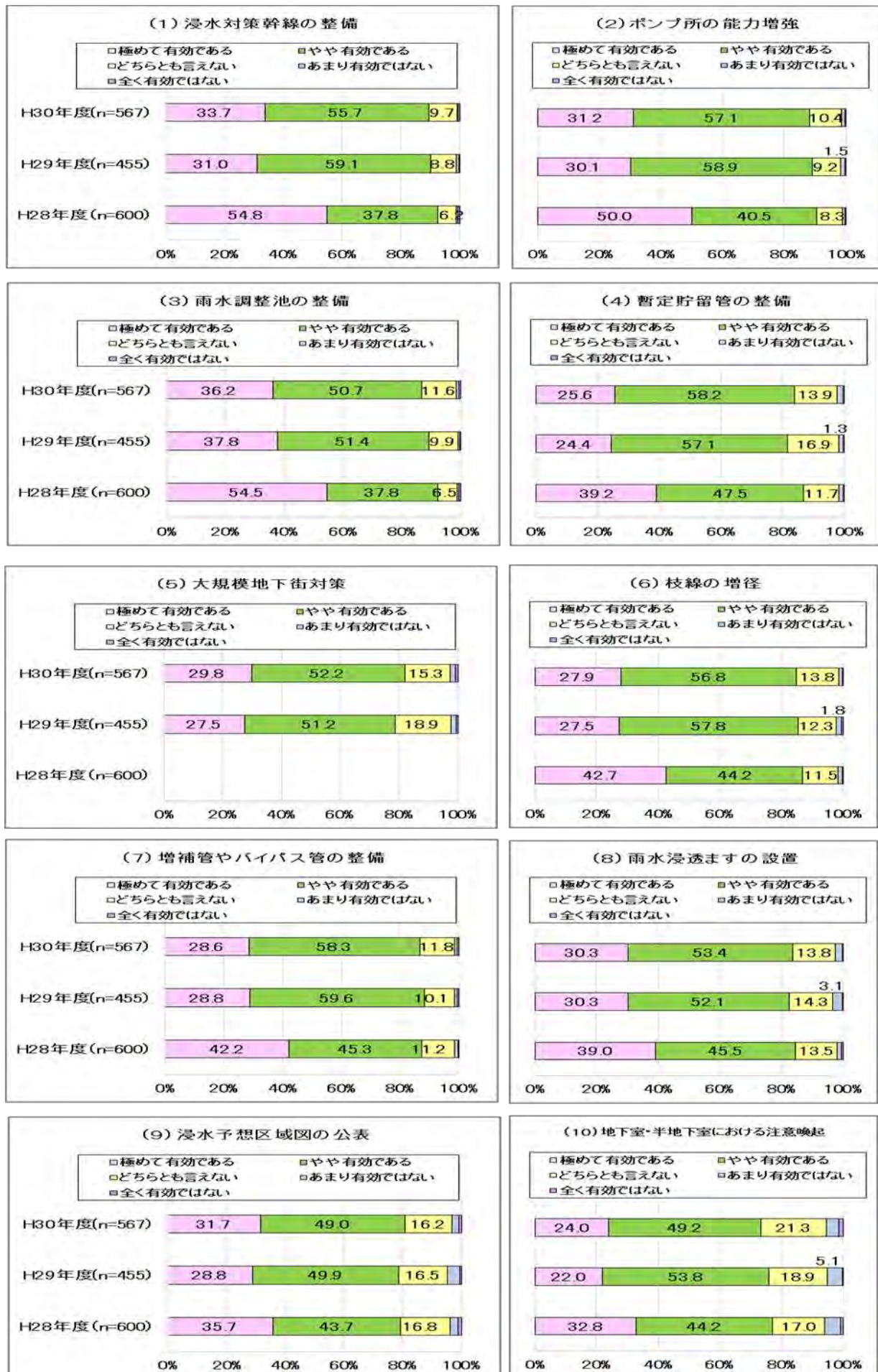


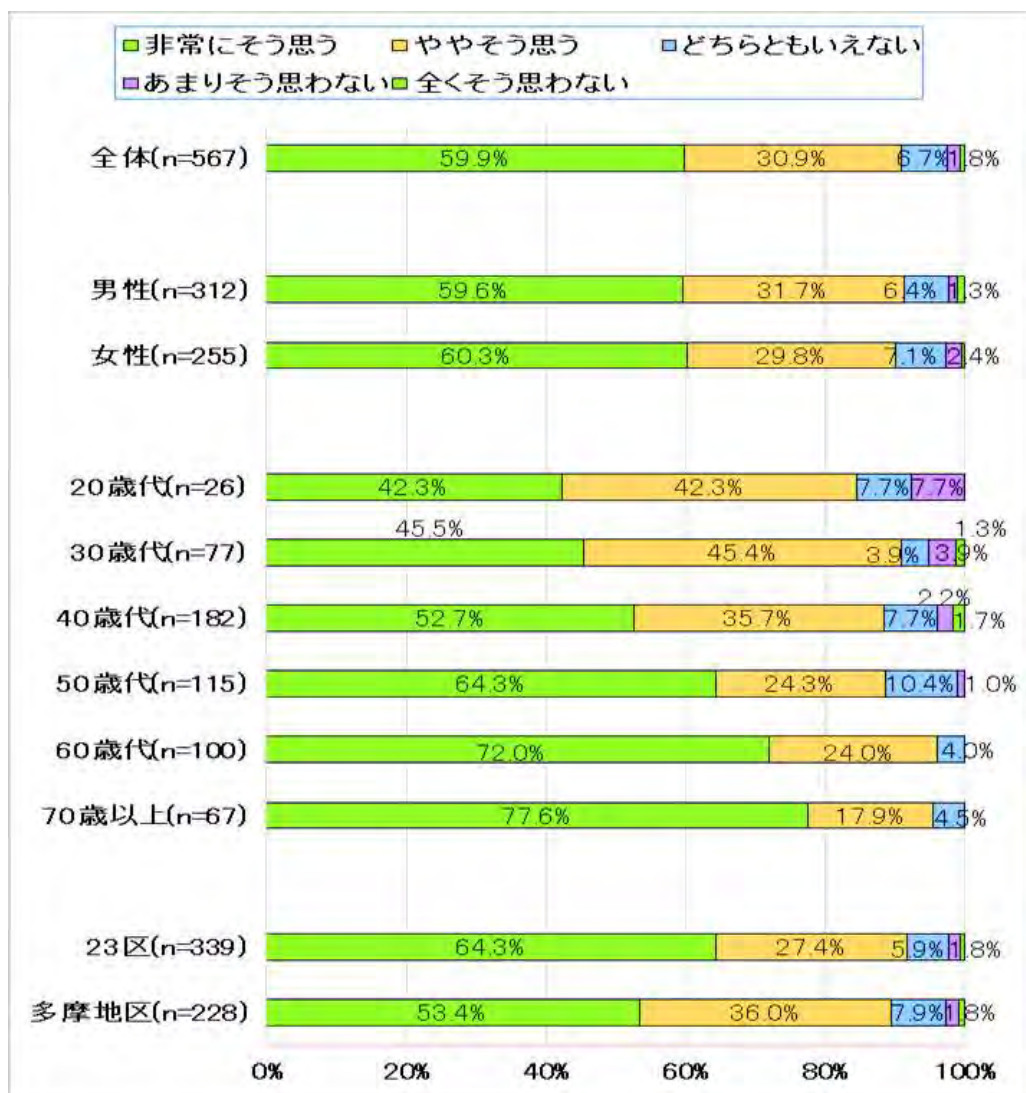
図4-1-3-2 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての評価（経年比較）

4.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見

- ◆ 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見では、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が90.8%となった。
 - ◆ 男女別にみると、『そう思う』との回答は、男性が91.3%、女性が90.1%となり、男性と女性で顕著な差は見られなかった。
 - ◆ 年代別にみると、『そう思う』は、60歳代が96.0%と最も高く、次いで70歳以上が95.5%となった。一方、20歳代は84.6%と最も低い結果となった。
 - ◆ 地区別にみると、『そう思う』は、23区部が91.7%、多摩地区が89.4%となり、23区部と多摩地区で顕著な差は見られなかった。
 - ◆ 経年比較でみると、『そう思う』との回答は、年度による顕著な差は見られなかった。
-

Q 8 東京都下水道局では、区部全域で1時間50ミリの降雨に対して浸水被害の解消を図る取組を行っていますが、東京都区部において、平成25年度に下表のような浸水被害が発生しています。

あなたは、浸水対策において、整備水準のレベルアップを含めた対応が必要だと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答えください。（単一回答）



経年変化

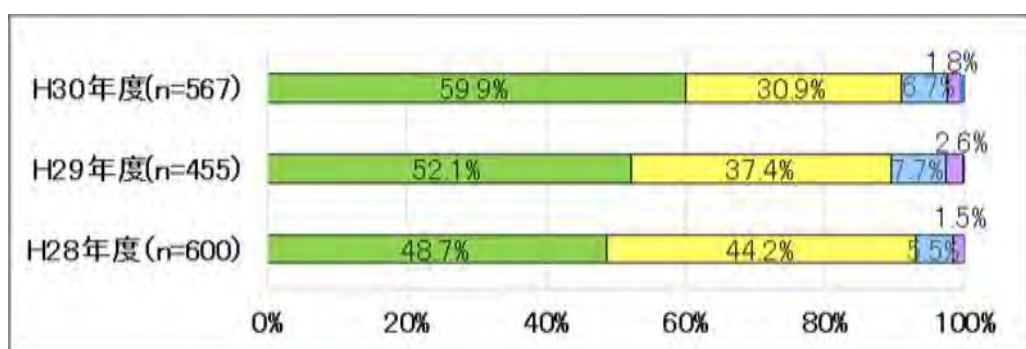


図4-1-4 下水道の浸水対策のイメージと具体的施策についての意見

4.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

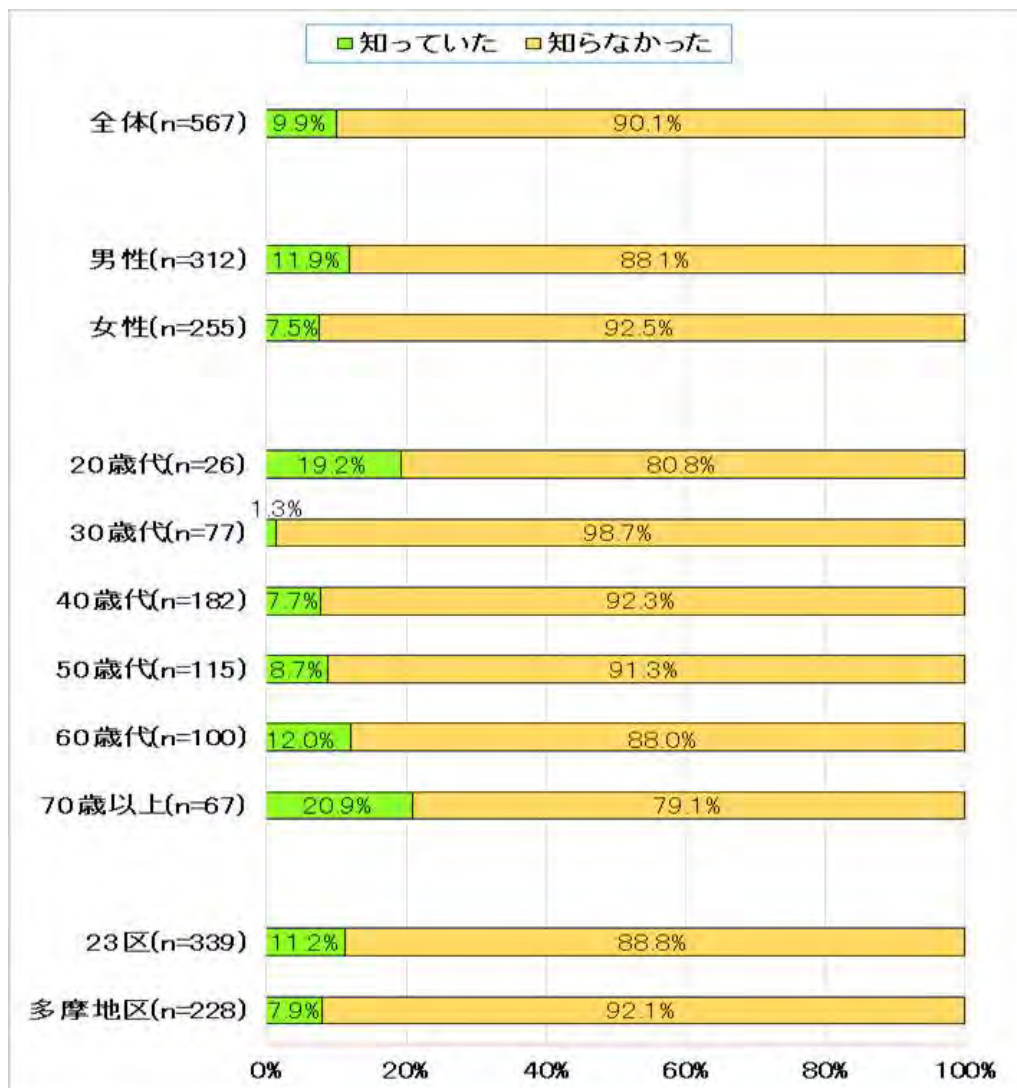
- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの認知度について、「知っていた」が9.9%、「知らなかった」が90.1%となり、プランの認知度は非常に低いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が11.9%、女性が7.5%と、男性が女性より4.4ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」では70歳以上が20.9%と最も高く、次いで20歳代が19.2%、60歳代が12.0%となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が11.2%、多摩地区が7.9%となり、23区部が多摩地区より3.3ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でも、「知っていた」はどの年度も約10%と非常に低く、認知度向上のための対策が必要であることが明らかとなった。

Q9 東京都下水道局では、平成25年の局地的集中豪雨や台風により、甚大な浸水被害が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含む検討を進めてきました。

平成25年12月、豪雨による浸水被害の軽減を目指して「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定しました。

あなたは、このプランを知っていましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答えください。

(単一回答)



経年変化

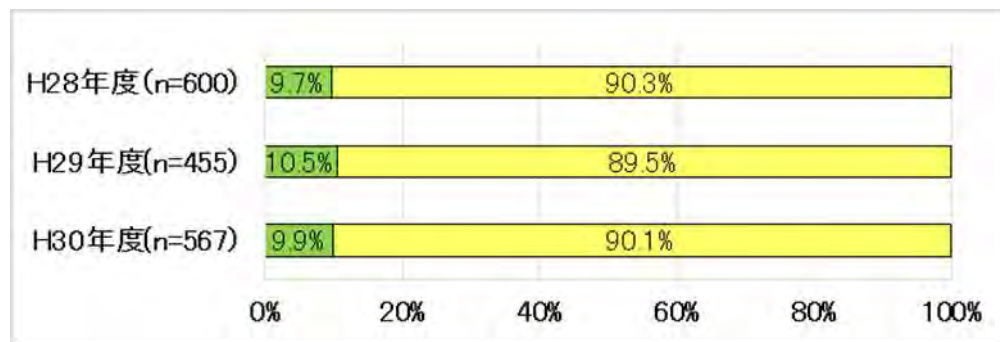


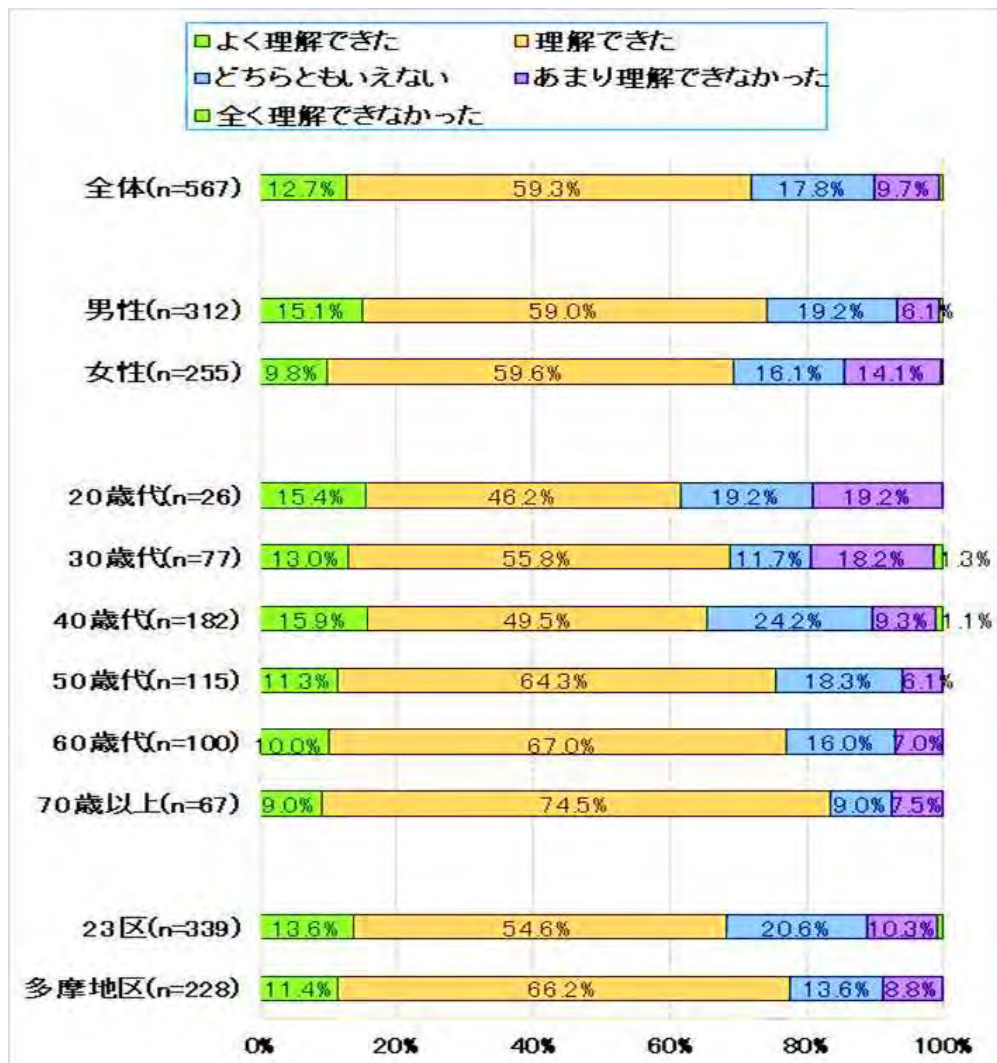
図 4 - 1 - 5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

4.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの認識度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの認識度について、「とても理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』が72.0%となった。
- ◆ 男女別にみると、『理解できた』では男性が74.1%、女性が69.4%となり、男性が女性より4.7ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『理解できた』では70歳以上が83.5%と最も高く、次いで60歳代が77.0%、50歳代が75.6%となった。最も低い20歳代でも61.6%と6割を超える結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『理解できた』では23区部が68.2%、多摩地区が77.6%となり、多摩地区が23区部より9.4ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、『理解できた』では、今年度は平成28年度調査より11.0ポイント高かったが、平成29年度調査との比較ではほとんど差はなかった。

Q10-1 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版を示します。

概要版をご覧になって、内容についてのご感想を教えてください。（単一回答）



経年変化

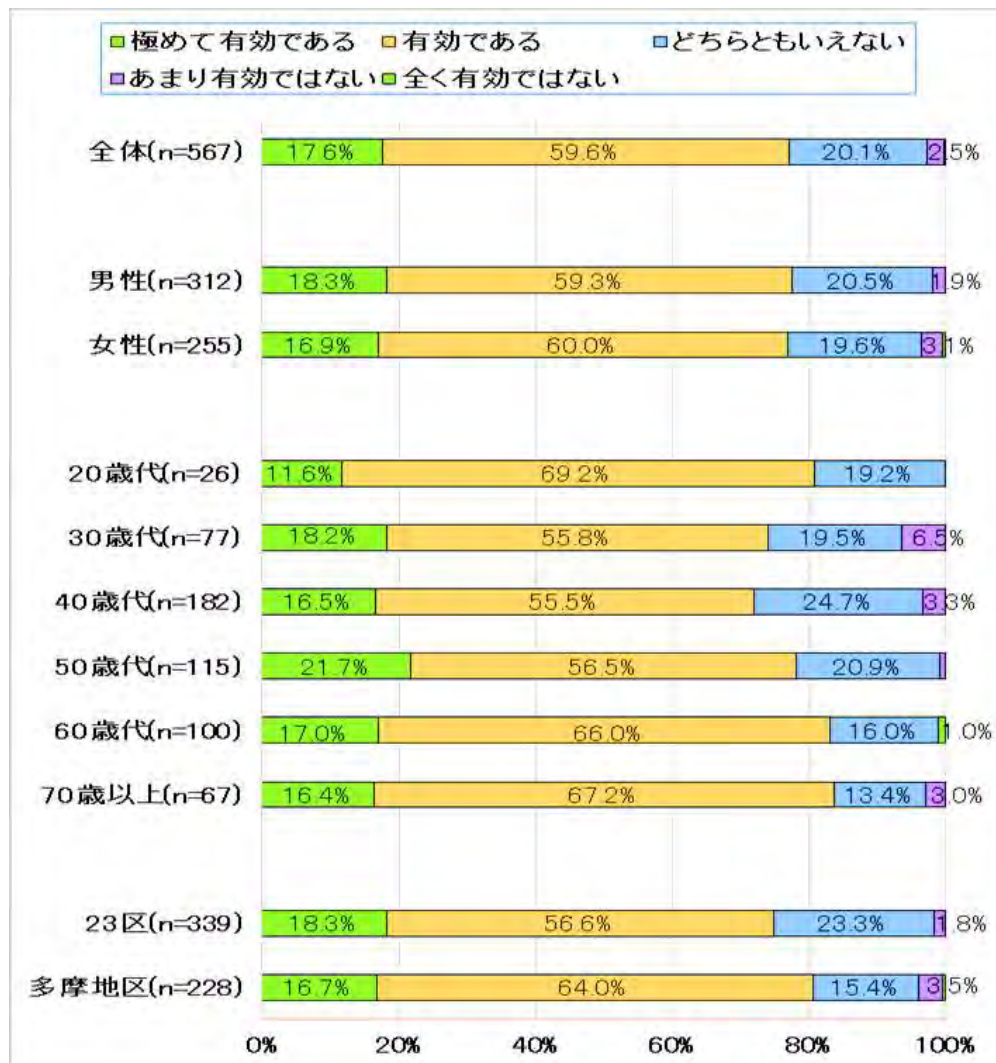


図 4 - 1 - 6 豪雨対策下水道緊急プランの理解度

4.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの期待度について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』は77.2%であった。
- ◆ 男女別にみると、『有効である』では男性が77.6%、女性が76.9%となり、男性と女性で差がほとんど見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、『有効である』では70歳以上が83.6%と最も高く、次いで60歳代が83.0%、20歳代が80.2%となった。
- ◆ 地区別にみると、『有効である』では23区部が74.9%、多摩地区が80.7%と、多摩地区が23区部より5.8ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、『有効である』では今年度は平成28年度調査より10.1ポイント低下したが、平成29年度調査との比較ではほとんど差はなかった。

Q10-2 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版をご覧になったのの評価を教えてください。(単一回答)



経年変化



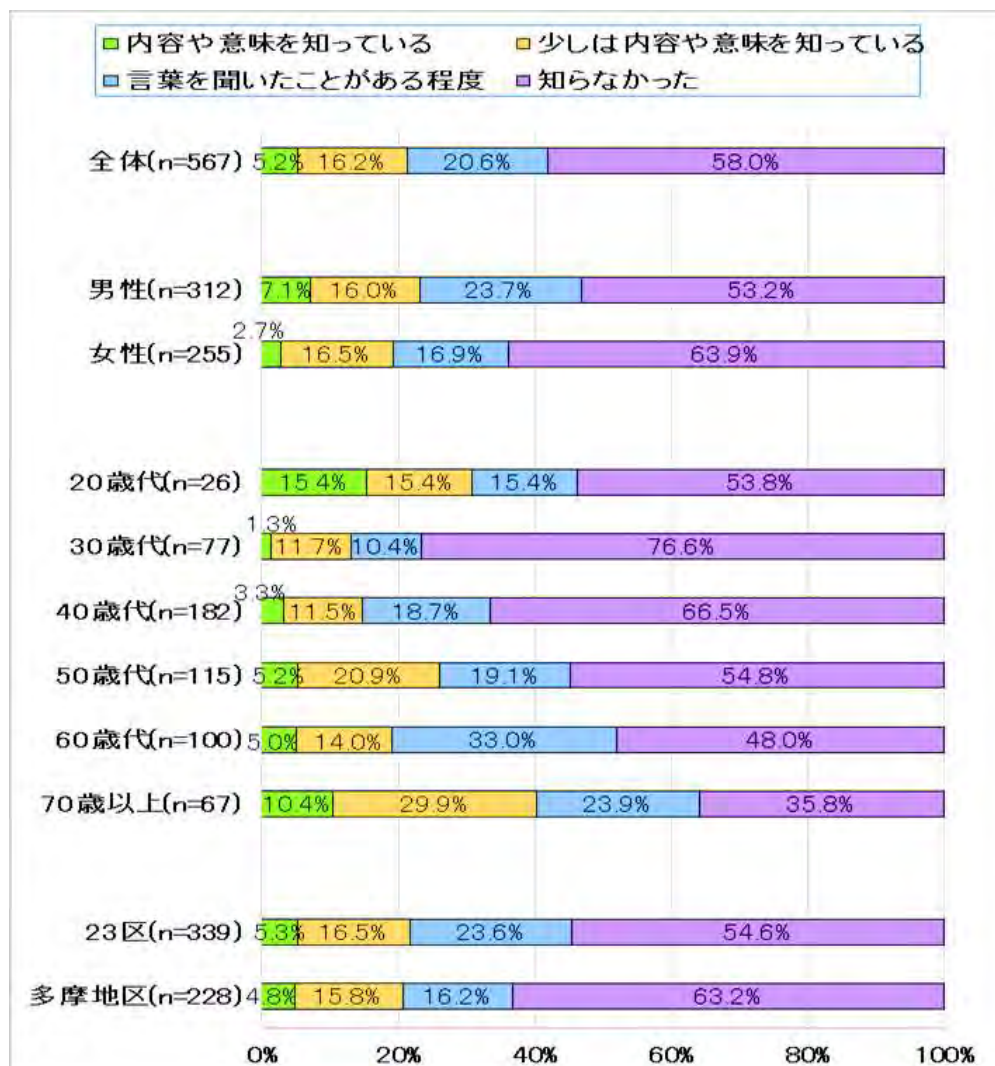
図 4 - 1 - 7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

4.2 家庭での浸水への対策について

4.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知度について、「内容や意味を知っている」と「少しは内容や意味を知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』は42.0%で、認知度は5割未満であった。
- ◆ 男女別にみると、『認知度あり』では男性が46.8%、女性が36.1%と、男性が女性より10.7ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『認知度あり』では20歳代を除き、年齢が高くなるにつれ割合も高くなっており、70歳以上では64.2%と6割を超えた高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『認知度あり』では23区部が45.4%、多摩地区が36.8%となり、23区部が多摩地区より8.6ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、今年度の『認知度あり』は、平成29年度調査に比べ4.8ポイント減少し、認知度が低下していることが明らかとなった。

Q11 あなたは、「浸水対策強化月間」についてご存知ですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）



経年変化

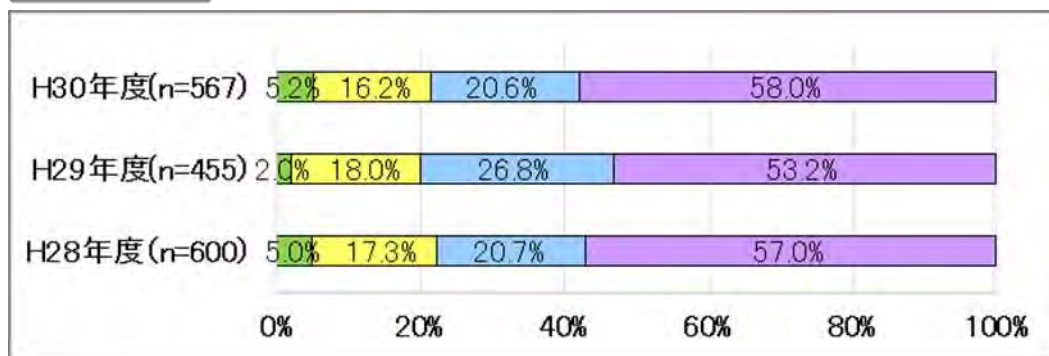


図 4 - 2 - 1 「浸水対策強化月間」の認知度

4.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路について、「東京都や東京都下水道局の広報誌」が49.2%と最も高く、次いで「東京都下水道局のホームページ」が26.9%、「東京都のホームページ」が25.6%となった。
- ◆ 男女別にみると、認知経路で「東京都下水道局のホームページ」との回答は、男性が29.5%、女性が22.8%で、男性が女性より6.7ポイント高かった。一方、「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は、男性が48.6%、女性が50.0%で、男性と女性で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、認知経路の中で「東京都下水道局のホームページ」との回答が最も高かったのは50歳代の38.5%で、次いで20歳代及び30歳代の33.3%となった。「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は70歳以上が最も高く72.1%、次いで60歳代の61.5%となっており、年代が上がるとともに、紙媒体への依存度が高くなる傾向が見られた。
- ◆ 地区別にみると、「東京都下水道局のホームページ」との回答は、23区部が26.6%、多摩地区が27.4%、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では23区部が49.4%、多摩地区が48.8%となり、地区の違いで大きな差はなかった。
- ◆ 経年比較でみると、「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答は年々低下している一方、「東京都下水道局のホームページ」は増加傾向が見られており、情報伝達手段として紙媒体から電子媒体への移行が進んでいることが明らかとなった。

Q12 上記Q11で、「1～3」を選択された方におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつかもお答えください。（複数回答）

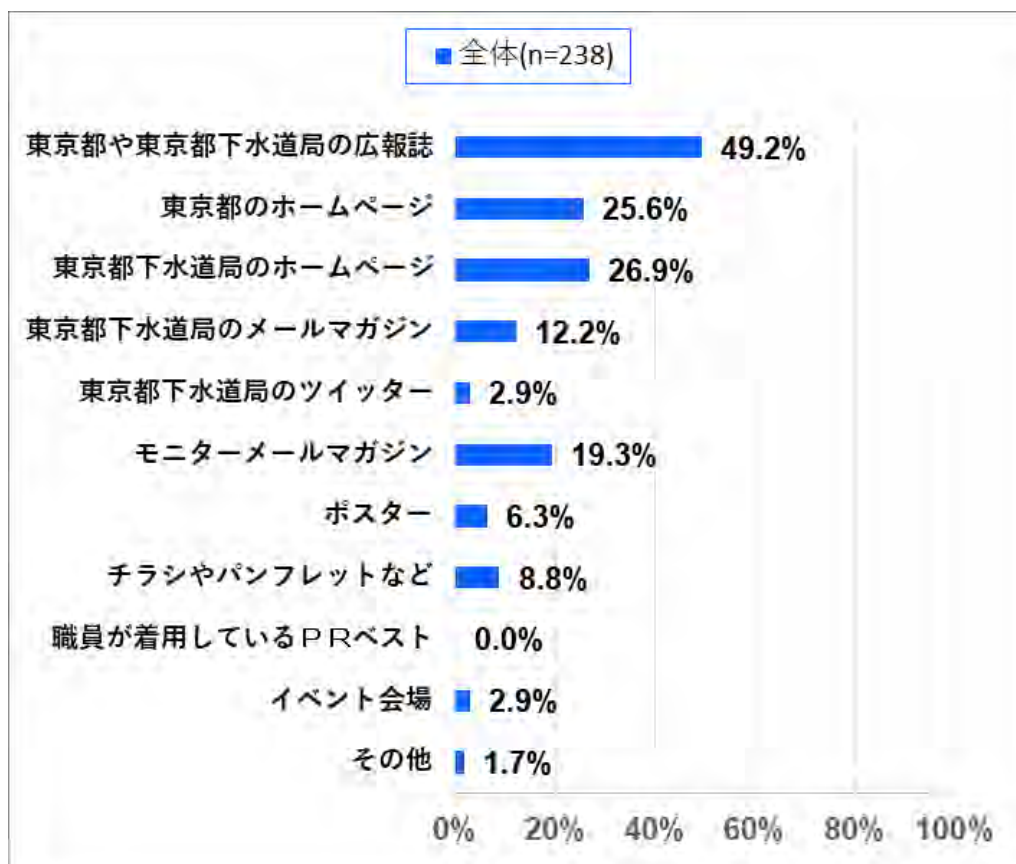


図4-2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路

表 4-2-2 「浸水対策強化月間」の認知経路（その他）

No	その他（記入例）	件数
1	和田貯水池でのイベント	1
2	区の施設（図書館？）か、どこかに置いてある何らかの広報紙だと思います。	1
3	もっと広く知らすべきだ。東京都広報も目に留まらなかった。 地方行政を担う最大機関は区だと思う。連携すべきだ。	1
4	職場にくるチラシ	1
計		4

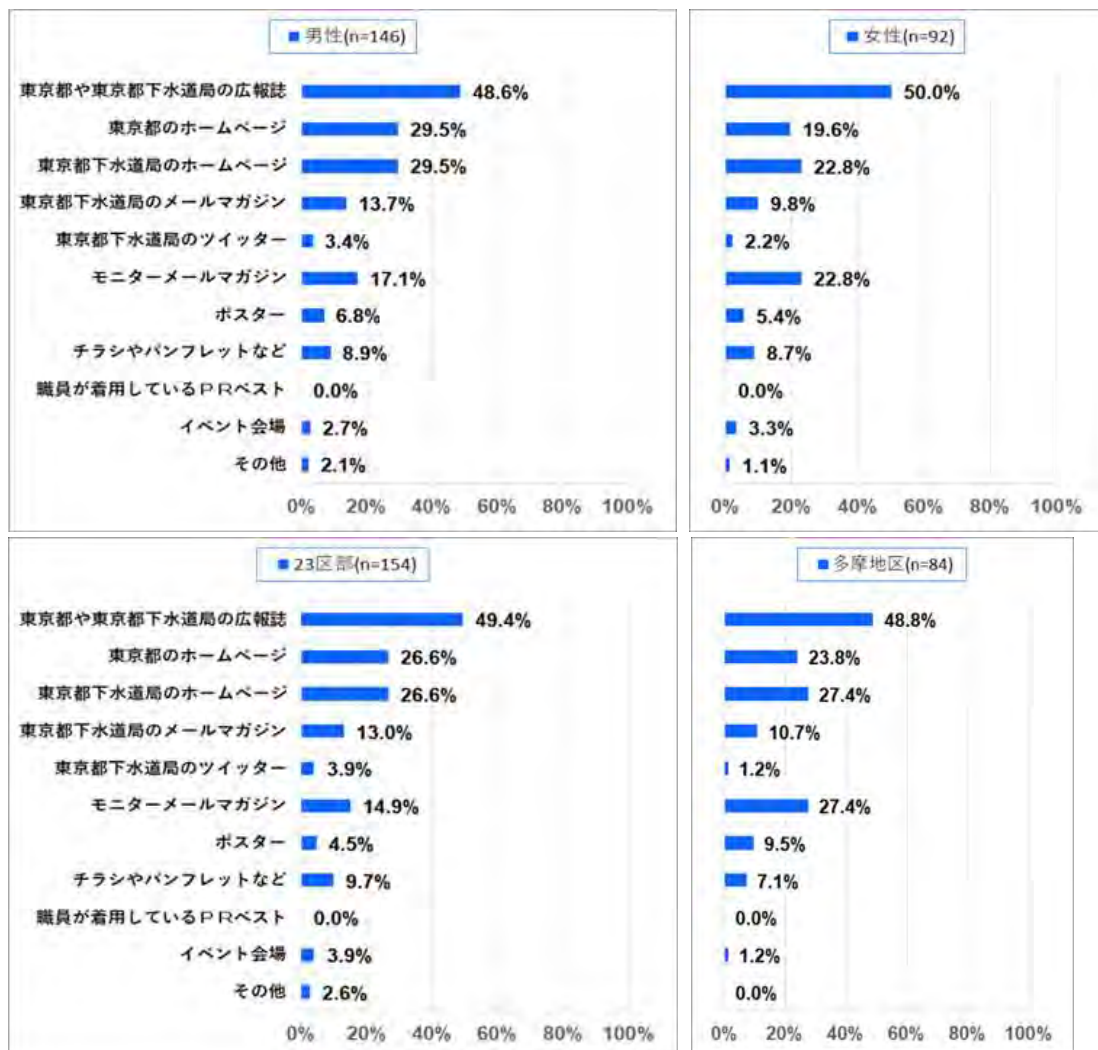


図 4-2-2-1 「浸水対策強化月間」の認知経路（性別・地区別）

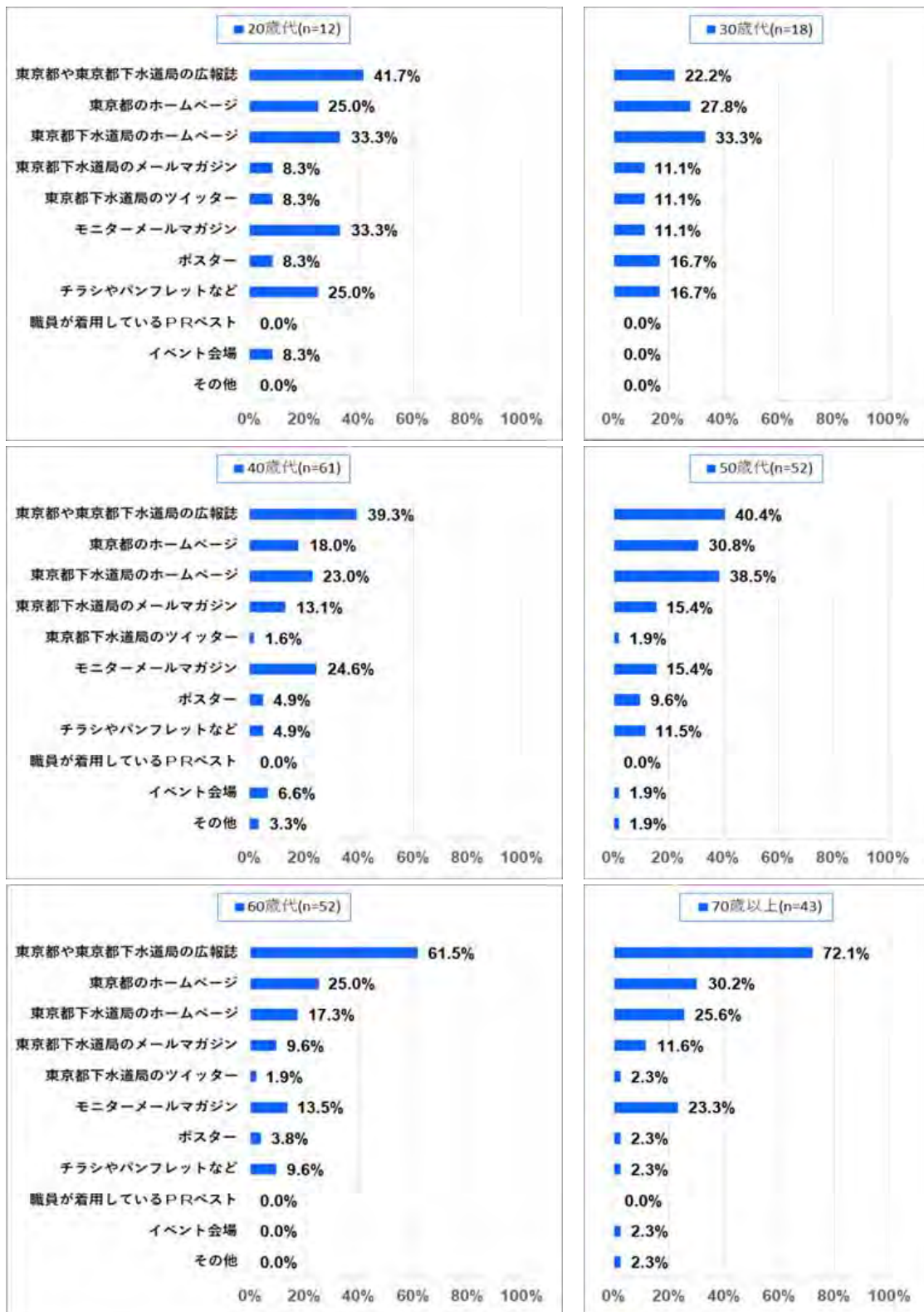


図４－２－２－２ 「浸水対策強化月間」の認知経路（年齢別）

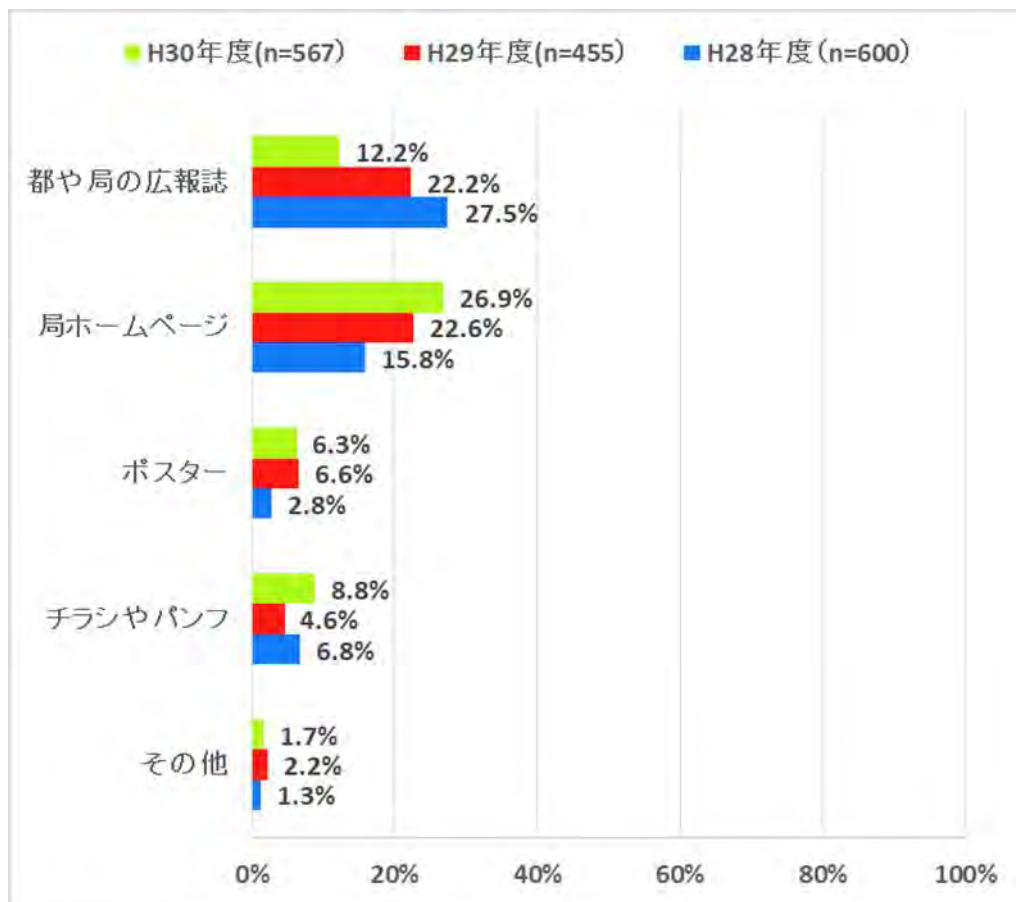


図 4－2－2－3 「浸水対策強化月間」の認知経路（経年比較）

4.2.3 「浸水対策強化月間」のイベントについて

- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントについて、「参加したことがある」は 3.7%、「イベントが開催されていることは知っているが、参加したことはない」は 25.4%、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 70.9%となり、イベントへの参加率は非常に低いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、両者の間で顕著な違いは見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「参加したことがある」の割合が最も高かったのは 20 歳代だったが、割合は 11.6%だった。また、「イベントが開催されていることは知っているが、参加したことはない」は年代の上昇とともに高く、70 歳以上は 46.3%であり、年代によって、参加率は低いもののイベントの認知度は約 5 割あることがわかった。一方、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」は 30 歳代が 89.6%と最も高い結果となり、若い年代への周知方法の改善が重要な課題であると考えられた。
- ◆ 地区別にみると、「イベントが開催されていることを知らないし、参加したことはない」では 23 区部が 69.0%、多摩地区が 73.7%と、23 区部が多摩地区より 4.7 ポイント低い結果となり、23 区部へのイベントPR方法を充実させる必要があることが分かった。

Q 1 3 「浸水対策強化月間」のイベント（店頭PR、施設見学会、建設工事現場見学会）に参加されたことはありますか。

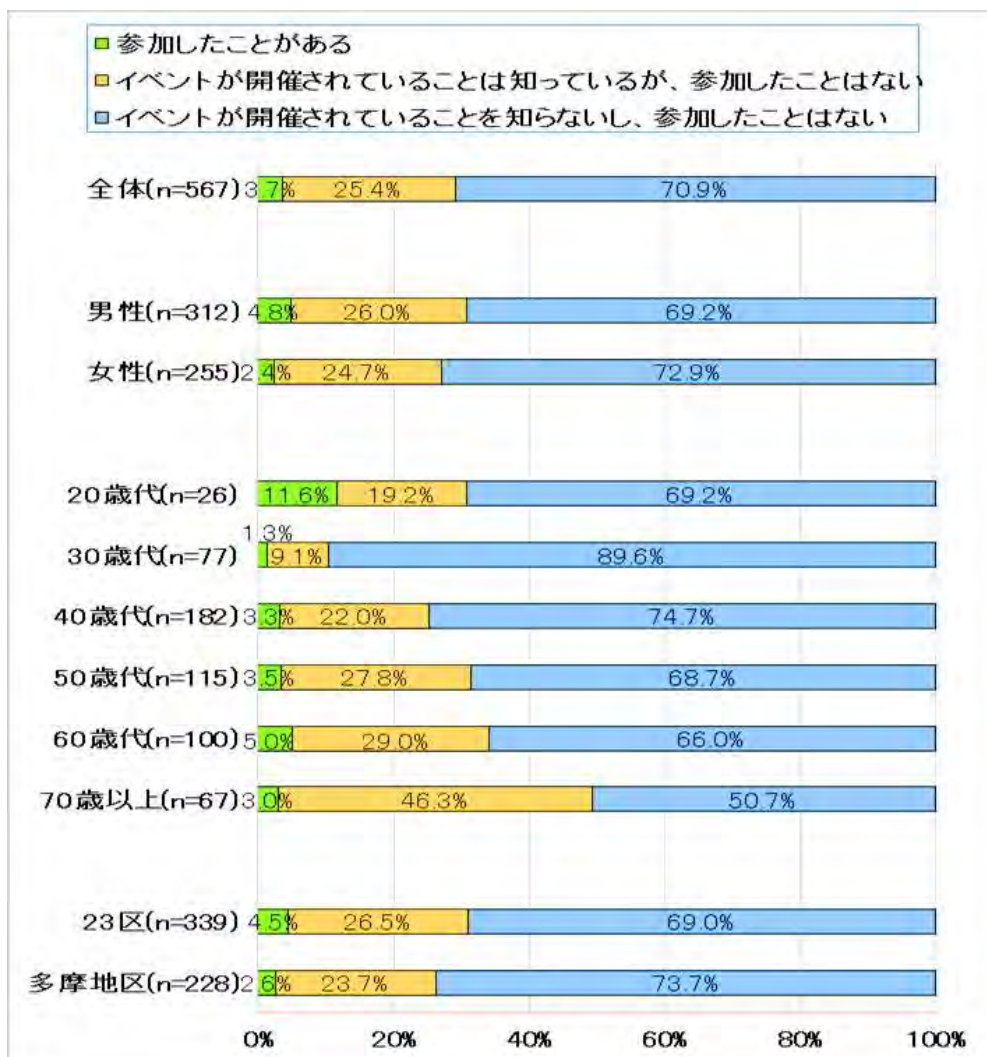


図 4-2-3 「浸水対策強化月間」のイベントについて

4.2.4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路

- ◆ 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について、「東京都下水道局のホームページ」が48.5%と最も高く、次いで「モニターメールマガジン」が37.0%、「東京都下水道局のメールマガジン」が27.3%となっており、メールマガジンやホームページなど局の電子媒体によるPR手段が効果を出していることが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、認知経路で男女間に顕著な差が見られたのは「モニターメールマガジン」で、男性が32.3%、女性が43.5%となり、女性が男性より11.2ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代によらず、認知経路で最も高い割合を示したのは、受動的に送られてくる「モニターメールマガジン」ではなく、自ら積極的に閲覧しなければいけない「東京都下水道局のホームページ」だった。特に70歳以上で「東京都下水道局のホームページ」との回答が54.5%と最も高く、ホームページは年代の高い方々へも浸透しているものと考えられた。
- ◆ 地区別にみると、「東京都下水道局のホームページ」では23区部が50.5%、多摩地区が45.0%、23区部が多摩地区より5.5ポイント高い結果となった。

Q14 上記Q13で、「1～2」を選択された方におたずねします。

「イベント情報」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。（複数回答）

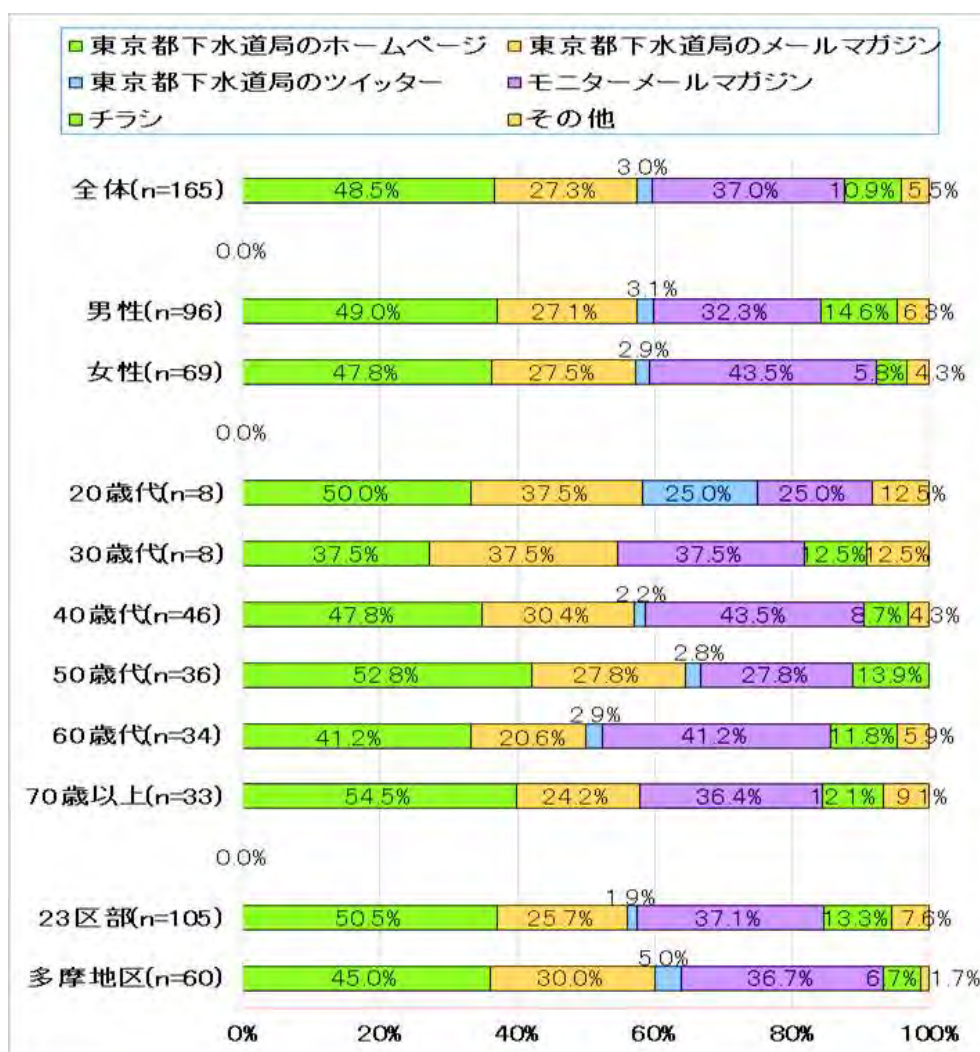


図4-2-4 「浸水対策強化月間」のイベントの認知経路について

4.2.5 家庭での浸水対策について

- ◆ 家庭での浸水対策について、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が 48.7%と最も高く、次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が 36.7%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が 25.0%となった。一方、「この中でやっているものはない」の回答も 27.0%あった。
- ◆ 男女別にみると、男女ともに回答率が高かったのは「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」で、男性が 46.8%、女性が 51.0%と女性が男性より 4.2 ポイント高かった。次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が男性で 22.8%、女性で 27.0%となり、女性が男性より 4.2 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、どの年代も「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」の割合が高く、50 歳代が 51.3%と最も高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」では、23 区部が 48.1%、多摩地区が 49.6%となり、地区により顕著な違いは見られなかった。
- ◆ 経年比較でみると、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」は、平成 29 年度の 39.1%に対し、今年度は 48.7%と 9.6 ポイント増加したが、他の項目は年度による大きな違いは見られなかった。

Q 1 5 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい。（複数回答） 「1～5」で該当するものがない場合は、「6」をお選びください。

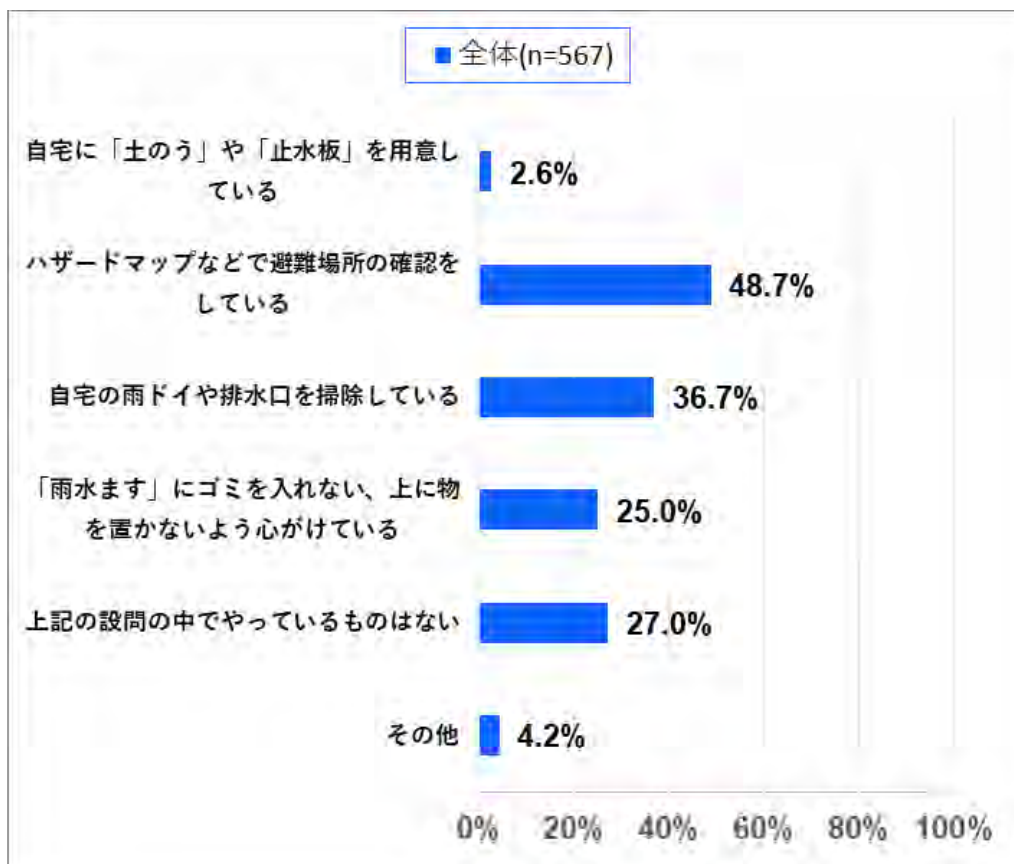


図 4－2－5 家庭での浸水対策について

表 4-2-5 家庭での浸水対策について（その他）

No	その他（内容）	件数
1	マンションで土のうの用意あり	1
2	マンションの管理組合や自治会で防災グッズを配備している。	1
3	マンション（42 階建）の管理組合に任せている。	1
4	マンションに住んでいます。	1
5	マンションの上の方に住んでいるので、何もしていない。	1
6	マンション 6 階なので、あまり心配していない。	1
7	自宅は、坂の中ほどにある 10 階建て集合住宅の 5 階なので、心配したことがありませんでした。	1
8	集合住宅に居住しているため、こういう質問を受けると浸水への備えの意識が低いということを考えさせられる。	1
9	500 世帯を超えるマンションの 2 階にいたため、個人的には上記のもの程度。管理組合として日頃の点検確認が必要と思う。	1
10	当然のことであるが、水は高い所から低い所へ流れるため、それを円滑に流れる（妨げない）ようにしている。	1
11	自宅近隣以外の避難場所、ルートなどの確認。被災した場合について子供と相談。	1
12	下水からの逆流を防ぐために、トイレ、流し、風呂のそばに大きなビニール袋を二重にして置いてある。	1
13	雨降り後、グレーチングに溜まった枯葉、レジ袋は取り除くよう心掛けている。	1
14	雨水浸透ますを設置している。	2
15	雨水ますの泥撤去等の手入れをした。	2
16	当方居住地は水害にはおよそ縁がない地区です。（石神井川最上流部）。	1
17	大雨の時には洗濯など多量の排水をしない。	1
18	雨どいから水が漏れることがあって、破れていた穴を塞ぎ、ごみを除去することはしました。	1
19	街歩きをして地形を知る	1
20	大正 6 年の東京湾高潮被害及び昭和 49 年 8 月東京豪雨を参考に対応している。	1
21	側溝の掃除や庭木がかからないようにしている。	1
22	雨が降った時、水の流れを監視して危険性の有無を注視している。	1
計		24

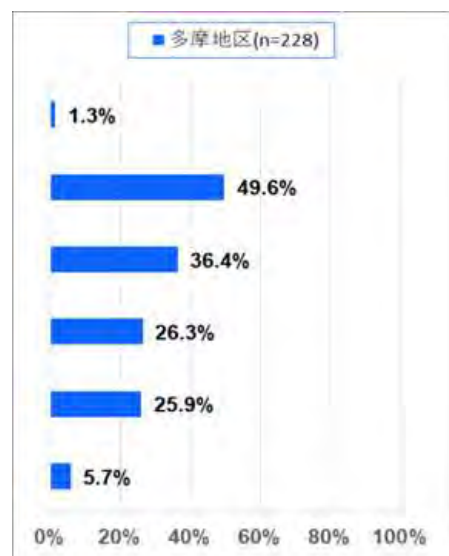
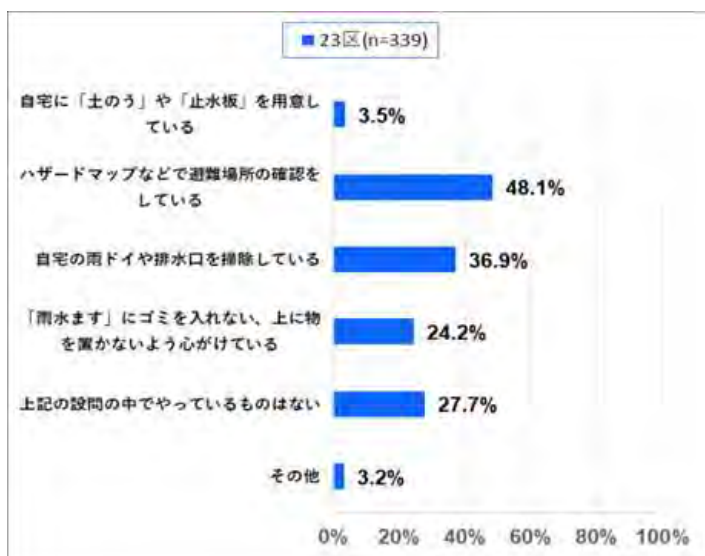
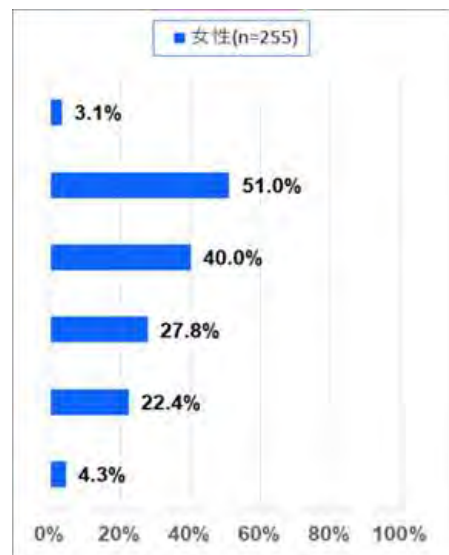


図 4－2－5－1 家庭での浸水対策について（性別・地区別）

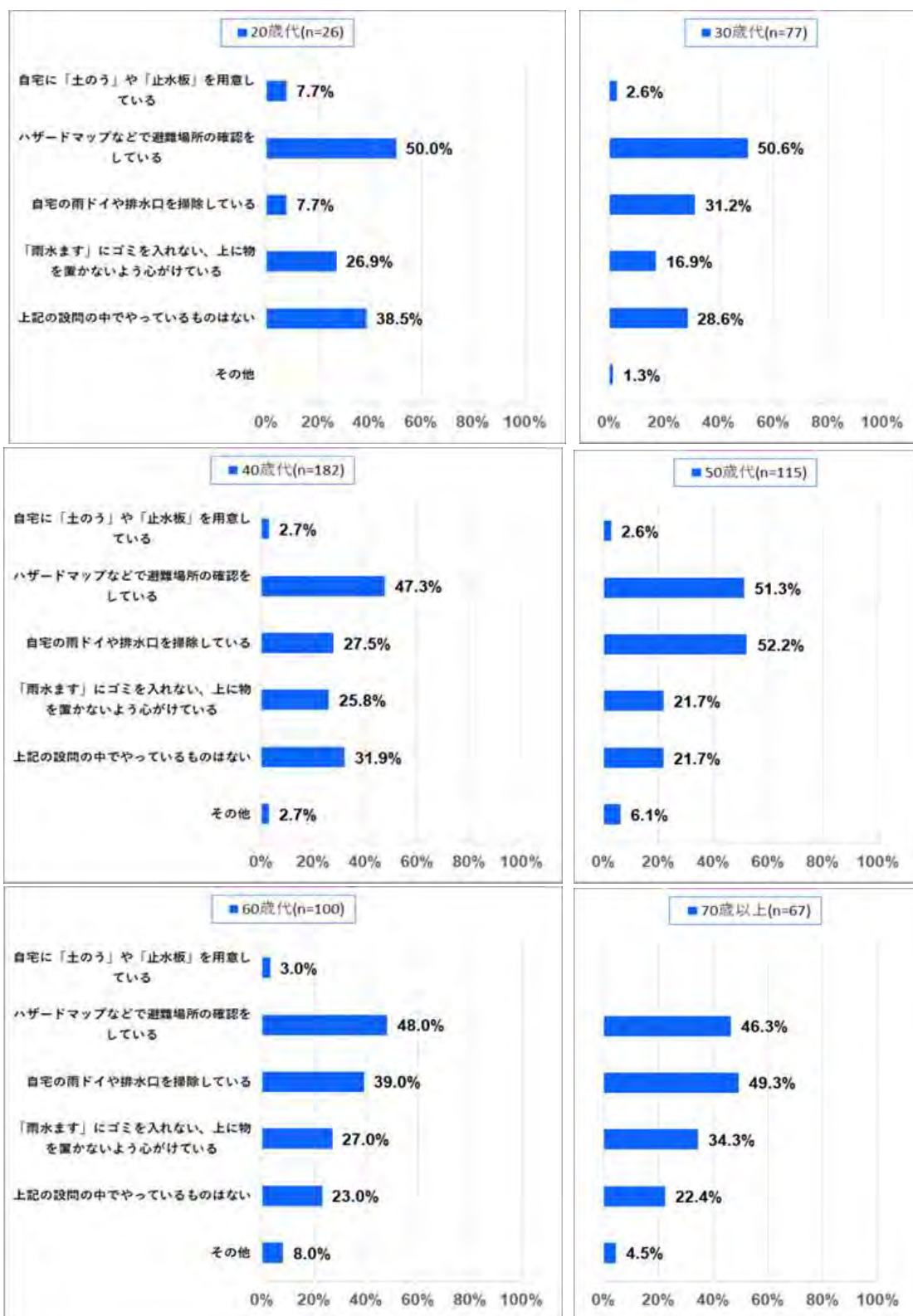


図 4－2－5－2 家庭での浸水対策について（年代別）

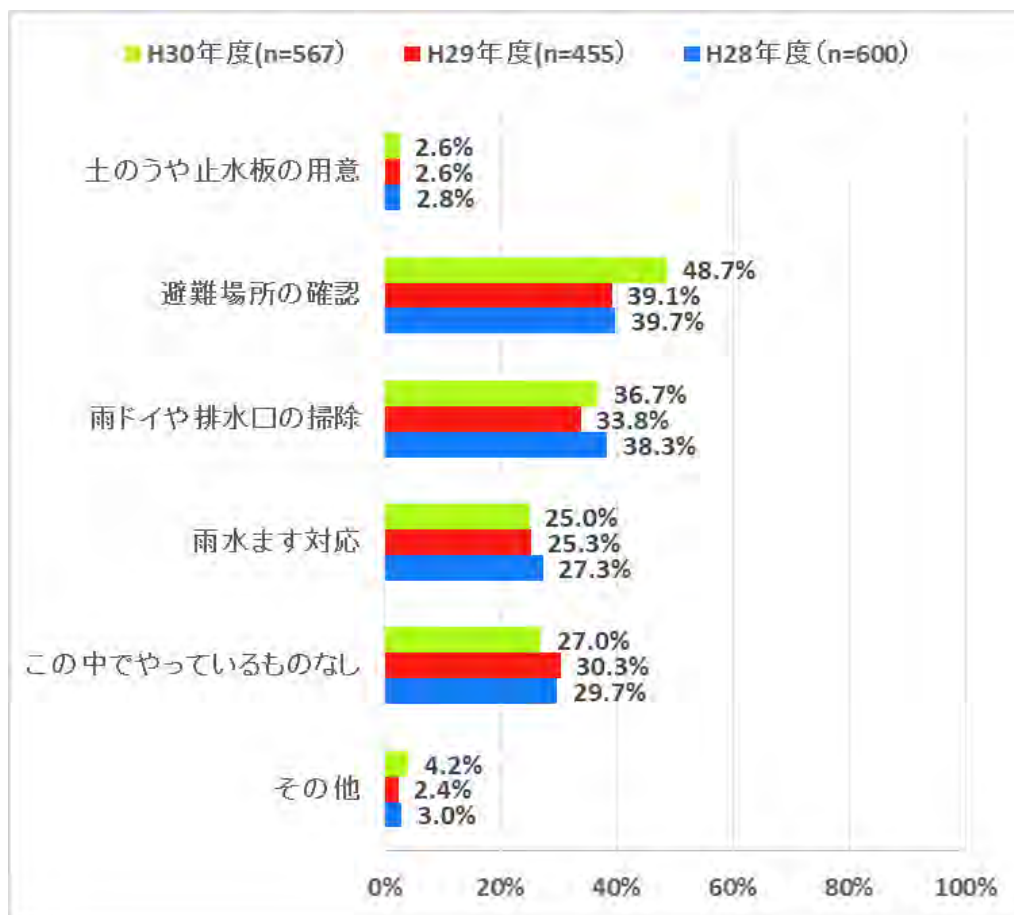


図 4－2－5－3 家庭での浸水対策について（経年比較）

4.2.6 家庭での浸水対策の安全性

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性について、「安全だと思う」と「たぶん安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』は 73.1%で、多くのご家庭で浸水対策への認識は高いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、『安全だと思う』では男性が 75.0%、女性が 71.0%となり、男性が女性より 4.0 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『安全だと思う』の割合は年代の上昇とともに高くなる傾向を示し、特に 70 歳以上は 82.1%と最も高かった。
- ◆ 地区別にみると、『安全だと思う』では 23 区が 68.7%、多摩地区が 79.8%となり、多摩地区が 23 区部に比べ 11.1 ポイント高い結果となった。

Q 1 6 あなたの自宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

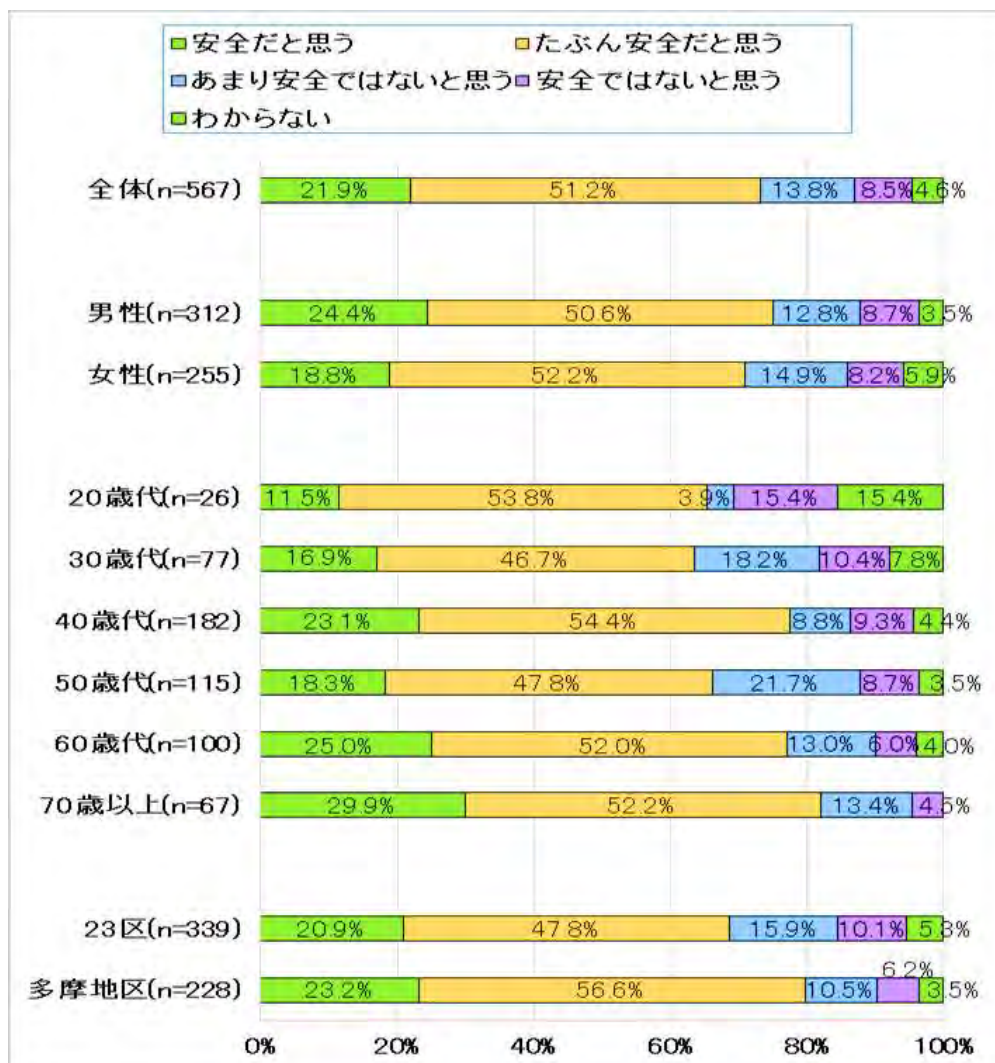


図 4-2-6 家庭での浸水対策の安全性

4.2.7 家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性に対する理由について、【安全だと思う、たぶん安全だと思う】では、「高層階に居住」が25.1%と最も高く、次いで「高台に居住」が22.9%となった。
- ◆ 【あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う】では、「その他立地条件」が26.2%と最も高く、次いで「その他」が25.1%、「川が近い」が14.3%となった。

Q17 上記Q16で、大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください。（自由回答）

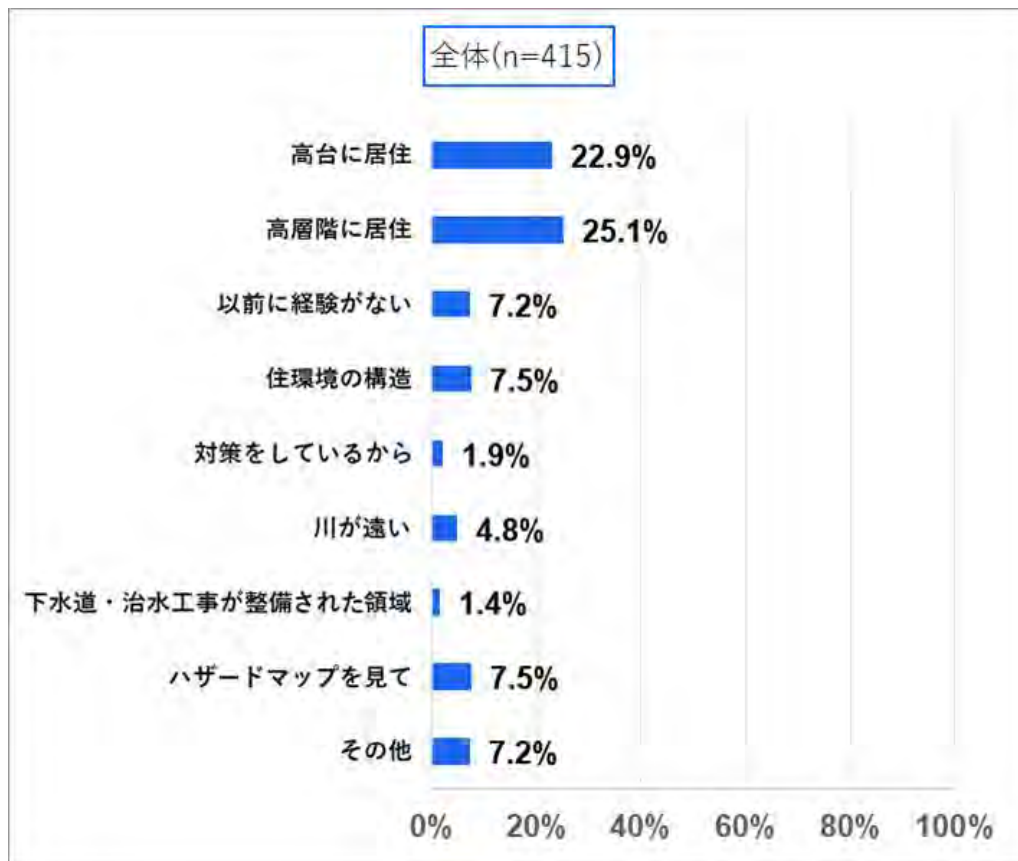


図4-2-7-1 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
（安全だと思う、たぶん安全だと思う）

【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】

(安全だと思う、たぶん安全だと思う)

➤ 高台に居住

- ◇ 自宅は高台にあるため、浸水の可能性はない。
- ◇ 家が比較的高い場所にあり、坂の下に川(暗渠)があるので、雨水はそちらに流れるのではないかと思います。
- ◇ 南に多摩川、北に霞川が流れているが両方の川に対して高台の位置にあり、東側(両方の川の下流方向)も傾斜で標高が低くなっているため。

➤ 高層階に居住

- ◇ 近くに川がない。マンションの高層階に住んでいる。
- ◇ 集合住宅の上層階であり、浸水の可能性が極めて低い。
- ◇ 浸水危険地帯ではなく、マンションの6階に居住しているため。

➤ 以前に経験がない

- ◇ 今まで浸水したことがなく、地盤は強い方だと聞いているから。
- ◇ 過去 60 年間に自宅が浸水していないので、立地なり、下水道等の設備がある程度恵まれていると思う。
- ◇ 10 年近く住んでいて一度も浸水被害がなかったから。近くの川よりも高い場所に位置しているから。

➤ 住宅の構造

- ◇ 庭に大きな用水が隣接し、これまで大雨でも十分に余裕があった。また自宅の建物回りの土を撤去、砂利敷設等、水はけをよくした。
- ◇ 私の住居は鉄筋コンクリートの集合住宅・5階建ての3階にあり、建物自身が小高い山の上にあるので大雨による浸水に対しては安全だと思います。
- ◇ 鉄筋コンクリート造のアパートの2階で、数度の台風や大雨でも雨漏りをしたことがないので。河川も近くになく、降った雨は近辺の道路を流れてしまうので。

➤ 対策をしているから

- ◇ UR機構の建物で、昭和 40 年公団入居時までに緊急雨水対策としての整備がなされていると思う。
- ◇ 集合住宅で管理がしっかりなされており、大雨の日には出入口に土嚢等の対応もなされている。
- ◇ 2階に住んでいることや隅田川への対策がかなり進んでいることが理由。

➤ 川が遠い

- ◇ 住んでいる場所は練馬区内陸地にある。近くに川はなく、河川による氾濫はないと思うが雨水による水はけには注意したい。
- ◇ 近くに河川がないし、土地が緩やかに傾斜していて降雨が流れて下水に入るし、今までにそのような被害が近隣で出ていないから。
- ◇ 主要河川から 10 メートル程度高く、更に尾根筋で周りよりも高く、水はけが良いため。

➤ 下水道・治水工事が整備された領域

- ◇ 今現在、江戸川区南葛西の団地に住んでいる。この場所は、地下の下水管が整備されている。区の広報により、安全・安心地域と指定されていると思う。

- ◇ 東京都や江東区による治水対策事業が計画的に整備されてきており、護岸を越えて来る浸水の危険度は小さくなってきているのではないかと。護岸が決壊しなければの条件付きではありますが。
- ◇ 周辺低地の浸水対策が進み、我が家の前の下水道へのごみ詰まりを注意すれば安全と認識している。

➤ ハザードマップを見て

- ◇ ハザードマップ上、浸水地域には入っていない上、地下鉄駅の標高から5メートル以上高くなっている。また、マンション最上階であるから。
- ◇ マンション購入時、地盤の情報やハザードマップの調査を徹底しているので、全く心配はありません。
- ◇ 市役所が出しているハザードマップなどに照らしても安全な場所であり、また自宅の築年数も浅いため。

➤ その他

- ◇ 東久留米市は大門町にあるスポーツセンターの下に大雨の時に対応出来る施設があると聞いたことがあるし、我が家は川から1キロくらい離れている。今回の山陰辺りのを見てみると、集中豪雨では机上理論では追い付かないくらいの大雨になる可能性は大きいと思う。
- ◇ マンションのすぐ前に仙川がありますが、相当の大雨であっても、水位がほとんど上がらないため。通勤経路等で、河川の近くや、大雨による冠水、水没のリスクのある地域を通らないため、危険性を感じない。
- ◇ 以前、大雨があった時に浸水しなかった。家に2階がある。近くに川があるが、通常、水が少なく、水が溢れるのを見たことがない。ただし、絶対に安全とは言いきれない。

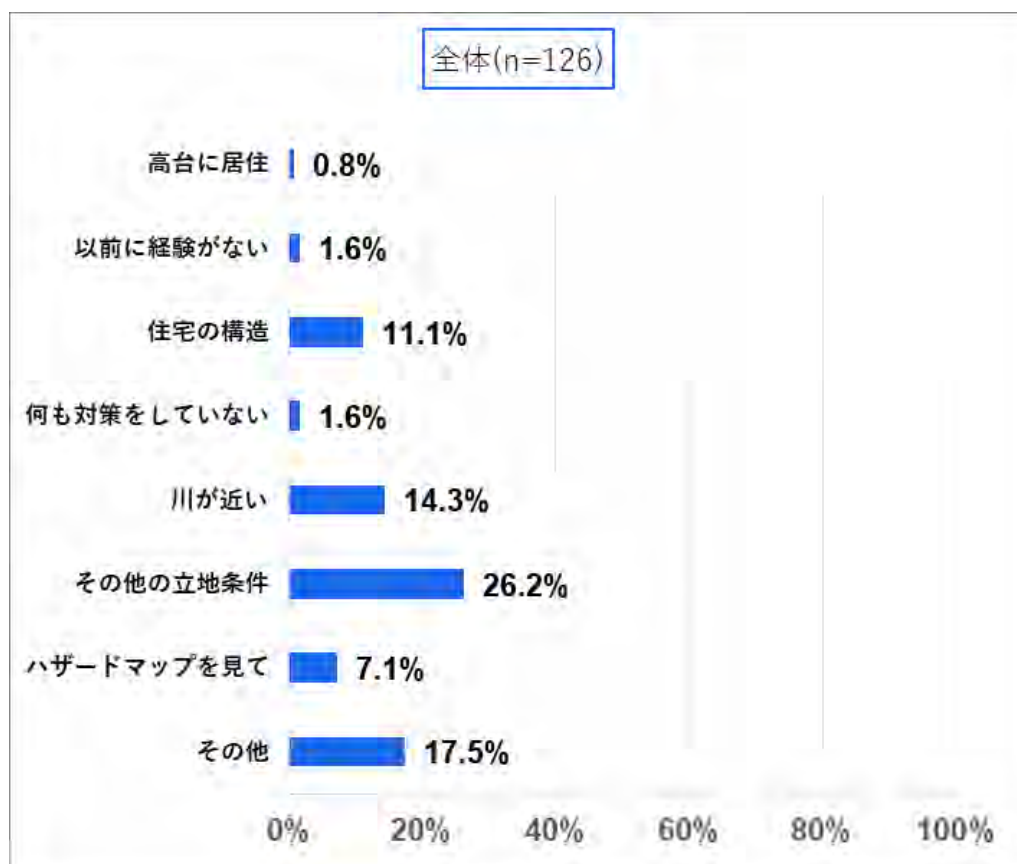


図4-2-7-2 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)

【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】

(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)

➤ 川が近い

- ◇ 以前、大雨があった時に浸水しなかった。家に2階がある。近くに川があるが、通常、水が少なく、水が溢れるのを見たことがない。ただし、絶対に安全とは言いきれない。
- ◇ 荒川の近くに住んでいます。いわゆる0メートル地区です。もし堤防が決壊したら大ごとです。家族全員のライフジャケットの購入を検討しています。
- ◇ 中川や綾瀬川の水位が上昇し堤防を越えた場合、川の水は必ず自宅にまで流れてきます。安心出来ませんし安全とは言えません。

➤ 何も対策をしていない

- ◇ 海拔40メートルの地域ですが、側溝清掃が出来ていないので、大雨で道路に雨水が溢れます。
- ◇ 対策らしいものを行っていないので。

➤ 住宅の構造

- ◇ 家の前の道路がすり鉢状に低くなっているのと、道路を渡ったところが高台で、雨が降ると全ての水が道路に流れてきます。排水管のキャパを超えているからです。
- ◇ 木造2階建の我が家は海拔2メートルにも満たないところです。時間当たりの降水量が極端に増加すればすぐに浸水すると思う。
- ◇ マンションの中層階に住んでいるので自宅は安全だと思う。ただし、エントランスや低層階は浸水被害にあうと思うから。

➤ ハザードマップを見て

- ◇ ハザードマップを見た。昨年、すぐそばの空堀川の上流があふれ、我が家のほうでは、川の水がぎりぎりまできていたと聞いたため。
- ◇ 今年初めてハザードマップを見て我が家が浸水地域とわかったので
- ◇ 多摩川の側に住んでいる。浸水マップの浸水地域になっている。

➤ その他（立地条件など）

- ◇ 土地が低い江戸川区に住んでいるので浸水については心配しています。浸水しても被害があまり出ないように対策しなければと被害のニュースに触れるたびに感じています。
- ◇ 田畑が近くにあるので、土が雨を含んだら排水機能が落ちて床下浸水になると思う。なのに、家族は「川が近くにないから大丈夫」という安直な考えで対策を何も行っていない。
- ◇ 近くに川がある。昔は湿地帯だったと聞いたことがある。30年ほど前の大雨の時、マンホールが浮いたことがあった。
- ◇ 昨今、1時間あたり100ミリを超える降雨がどこでも起こりえると思われるため。豪雨、台風による高潮により、土砂が上下水道に流れ込んだ場合、断水や下水が使用不能になることが起こりうると思われるため。
- ◇ 60年ほど前の台風で床上浸水したことがある。その頃は床下浸水はよくあったように思う。最近浸水被害はないが、近年の異常気象による豪雨を考えると安全ではないと思う。
- ◇ 23区内の排水・貯留の能力向上施策は重要であり、事実向上していると思いますが、荒川、江戸川など周辺を取り巻く河川の大雨時の堤防決壊のおそれを危惧します。最近の降雨量は時間降雨から日降雨量の視点での見直しも必要ではないでしょうか。

4.3 東京アメッシュについて

4.3.1 東京アメッシュの利用の有無

- ◆ 東京アメッシュの利用の有無について、『利用している』が47.6%、「利用してみたが、今は利用していない」と「利用していない」を合わせた『利用していない』が52.4%となった。
- ◆ 男女別にみると、『利用している』では男性が52.9%、女性が41.2%と、男性が女性より11.7ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『利用している』では50歳代が61.7%と最も高くなっており、次いで40歳代が48.9%、60歳代が47.0%、30歳代が42.9%と40%を超えた結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『利用している』では23区部が51.3%、多摩地区が42.1%となり、23区部が多摩地区より9.2ポイント高い結果となかった。

Q18 あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するもの一つだけお選びください。（単一回答）

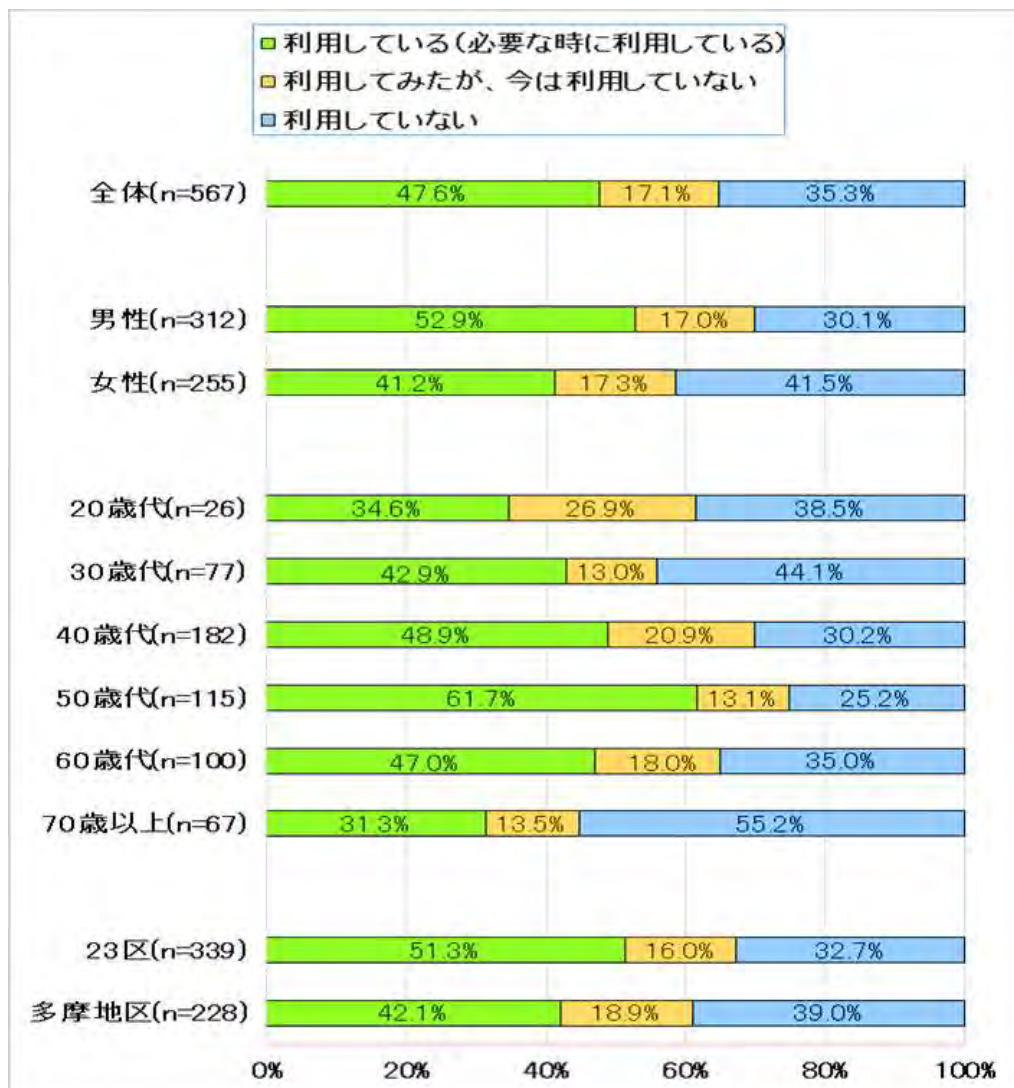


図4-3-1 東京アメッシュの利用の有無

4.3.2 東京アメッシュの利用方法

- ◆ 東京アメッシュの利用方法について、「パソコン版」が47.0%、「スマートフォン版」が27.4%、「パソコン版とスマートフォン版」が25.6%となり、パソコン版の利用が多いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「パソコン版」では男性が52.1%、女性が39.0%、「パソコン版とスマートフォン版」では男性が27.9%、女性が22.0%と、男性が女性よりそれぞれ13.1ポイント、5.9ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「パソコン版」の利用は、年代の上昇とともに高くなり、特に70歳以上は71.4%と最も高く、次いで60歳代が63.8%となった。「スマートフォン版」では40歳代が38.2%と最も高くなっており、次いで20歳代と30歳代がともに33.3%という結果になり、年代の若い層では「スマートフォン版」の利用が多いことが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、「パソコン版」では23区部が46.6%、多摩地区が47.9%、「スマートフォン版」では23区部が27.0%、多摩地区が28.1%と、多摩地区と23区部で大きな差は見られなかった。

Q19-1 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

(1) あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらをご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。

(単一回答)

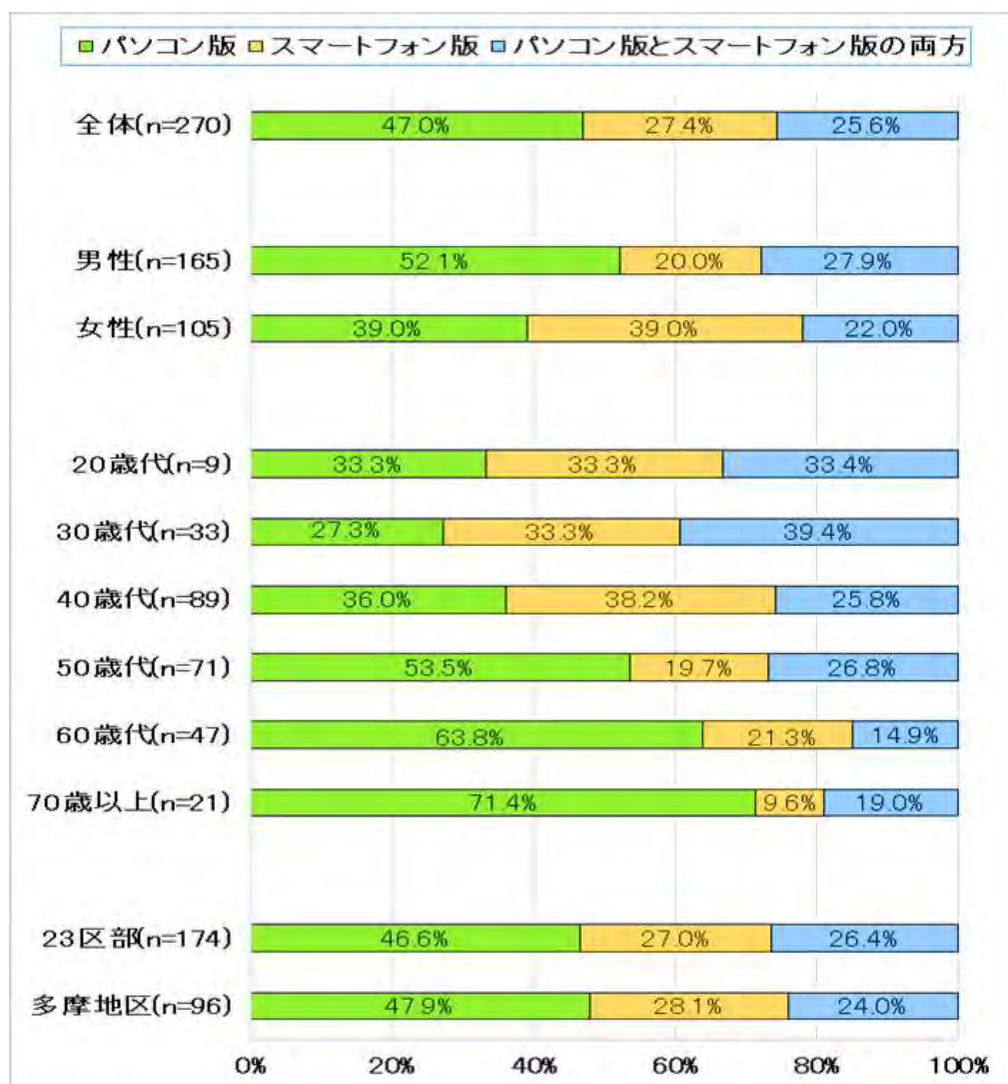


図4-3-2 東京アメッシュの利用方法

4.3.3 東京アメッシュの利用頻度

- ◆ 東京アメッシュの利用頻度について、「週に1回未満」が37.4%と最も高く、次いで「週に2～4回」が24.8%、「週に1回」が23.7%、「週に5回以上（ほぼ毎日）」が14.1%となった。
- ◆ 男女別にみると、「週に1回未満」では男性が33.3%、女性が43.8%と、女性が男性より10.5ポイント高く、「週に2～4回」では男性が28.5%、女性が19.0%と、男性が女性より9.5ポイント高い結果となり、全体的に、男性の利用頻度の方が高いことが明らかとなった。
- ◆ 年代別にみると、どの年代も利用頻度は同様の傾向を示したが、30歳代では利用頻度が極端に少ないことが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、「週に1回未満」では23区部が40.2%、多摩地区が32.3%で、全体的に23区部が多摩地区より利用頻度が低い傾向が見られた。

Q19-2 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

(2) あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか？

以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

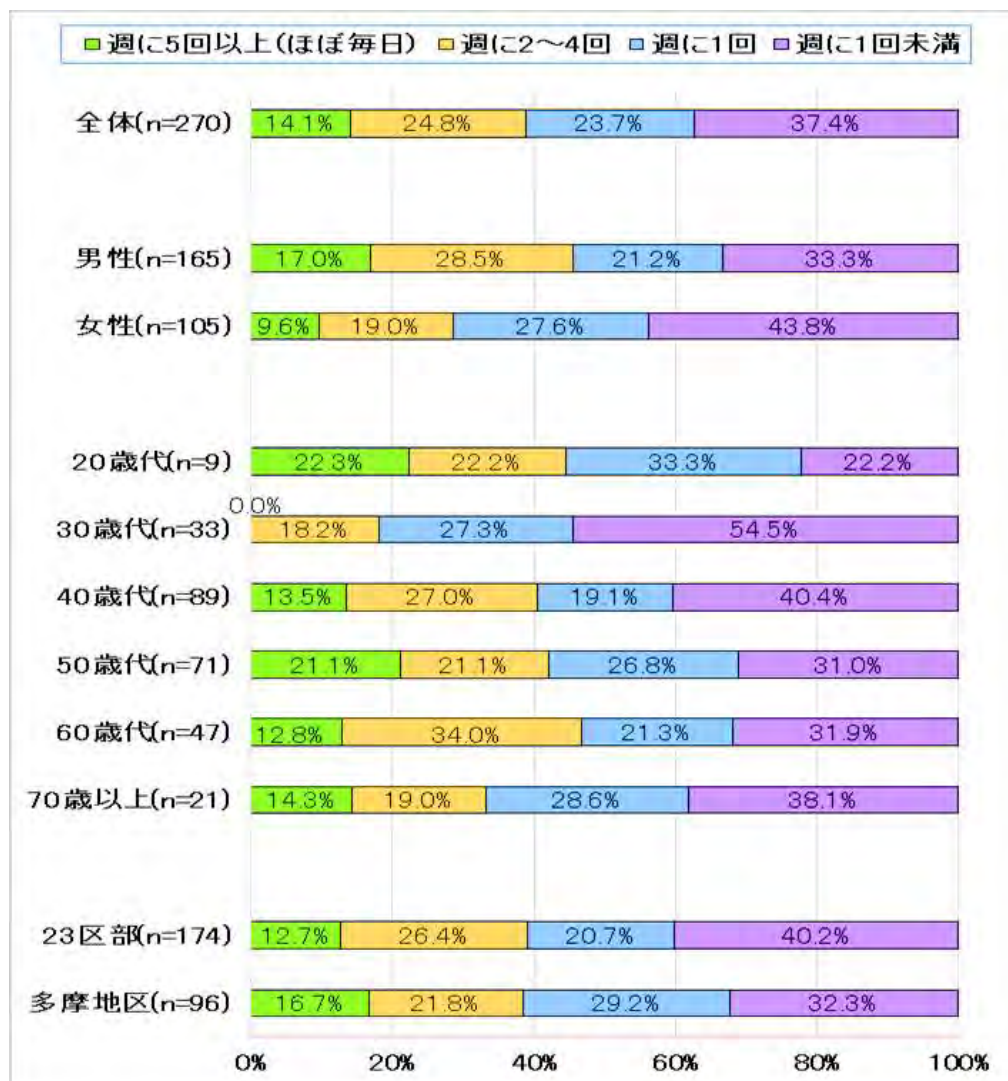


図4-3-3 東京アメッシュの利用頻度

4.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

- ◆ 東京アメッシュのGPS活用アイデアについて、「地点登録」の割合が12.2%と最も高く、次いで、「雲の動きを見ている」が11.9%となった。また、「その他」が20.7%であった。

Q19-3 上記Q18で、「1」を選択された方におたずねします。

「東京アメッシュ」スマートフォン版は、スマートフォンのGPS機能を活用して、地図上の現在地の表示や、任意に登録できる2地点までの降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。
(自由回答)

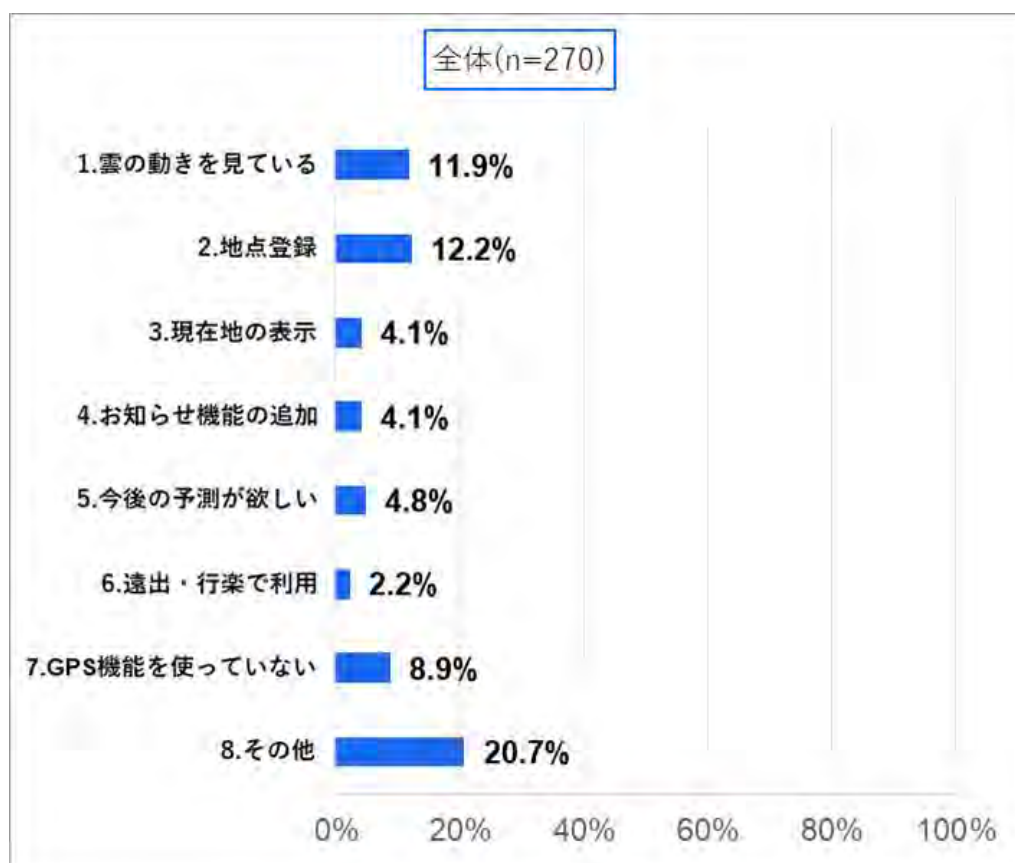


図4-3-4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

【東京アメッシュのGPS活用アイデア】

➤ 雲の動きを見ている

- ◇ 外出先での急な雨や、これからの雨の降り方がリアルタイムで分かるので、傘を持っていくか、傘を開く必要があるのか（地下街を通っていくか、地上を歩くのか）を判断しながら行動することができる。
- ◇ 今起こっているゲリラ豪雨がいつ頃終了するかの予測を立てられる。（このまましばらく待機したほうがよいか、雨に濡れてでも動いたほうがよいかを決めることができる。）
今後の降雨状況の予測が立てられる。以前のようにアプリ版を出してほしいです。
- ◇ 大雨情報が予想される場合、気象庁などが提供しているスマートフォンの天気予報と東京アメッシュをリンクさせることにより、移動する地点の降雨状況や将来予想を把握でき移動可否の判断やリスク低減につながる。

➤ 地点登録

- ◇ 自宅、職場、子供の学校、いつも浸水する場所（アンダーパス）、最寄り駅など、普段行動する範囲で大雨が降ると困る。または危険な場所を登録しておくと思う。
- ◇ 親戚の地域の安否確認。自宅が東東京、親戚が西東京なのでそれぞれの地域の状況が把握出来る。
- ◇ 任意の登録は、娘一家の住所を登録し、何かあれば、早めに連絡を入れたいと思います。
西日本での豪雨災害があったばかりで、非常に怖いと思います。

➤ 現在地の表示

- ◇ GPS機能が付いて、とても便利になりました。
- ◇ 現在地の表示でこれから自分の向かう地点の降雨状況がわかるので便利。できれば、鉄道路線図の表示があれば良いと思います。
- ◇ 豪雨による被害が相次いでいる昨今、外出先でも積極的に利用していきたいです。

➤ お知らせ機能の追加

- ◇ 過去の降水量と浸水被害、事故などの位置情報を地図上に登録しておき、現在地の周辺に危険箇所や洪水リスクがある場合、アラートが表示される。過去の降水実績や予測モデルに基づいて、降雨量が激増してきた場合、アラートや最寄りの避難所や高台の位置が表示されるなど対応策が警告される。
- ◇ ユーザー登録すると、端末の位置情報を利用して、一定以上降雨を見込まれた場合にプッシュ通知をするサービス。
- ◇ 現在地の状況で豪雨になりそうな時は、通知があるといい。

➤ 今後予測が欲しい

- ◇ 現在と過去の降雨の状況を把握するうえで、大変便利ではありますが、雨雲レーダーのように、今後の雨雲・降雨を予想してもらえると、外出時に傘を持つべきかなどの判断に役立ちます。
- ◇ 雨を避けて移動するルート予測機能や、行き帰りの際の降雨予想に対してのアラート機能などができると便利だと思います。
- ◇ 今の場所に、いつくらいにどのくらいの雨が降るのか知りたい、これから向かう先で雨が降るのかも知りたい。

➤ 遠出・行楽で利用

- ◇ 屋外行事に参加するときの携行品や行事参加の最終判断の参考に使っています。降雨の推移状況は特に交通機関の運行状況に影響するので活用しています。
- ◇ バイクでツーリングに出かけるので、その際に大いに活用しております！
- ◇ 出かける折の参考に使っております。特に旅行に出かける前には必ず見ております。

➤ G P S機能を使っていない

- ◇ 全体を俯瞰したい(雨のエリアの移動や雨量の経過から自分で予測する)ので、G P S機能は特段必要性を感じられない。
- ◇ 今、保有のスマホは4インチと小さく、パソコンでのみ利用しています。大きい画面のものに買い換えたらアプリを活用したいです。
スマートフォン版は未使用ですが、今後使う機会があれば、家族がいるポイントなどを共有すると思います。

➤ その他

- ◇ 自宅に在宅しているときには、パソコンで「東京アメッシュ」を検索しています。外出先ではスマートフォンで「東京アメッシュ」を検索しています。自宅と外出先の使用方法を区別しています。
- ◇ 思いつかない。営業で外回りの仕事をしていたら、もっと頻繁に利用するかもしれない。
- ◇ 各地区の排水能力を判断し、危険レベルを発信して、避難の要否判断に活用したい。

4.3.5 東京アメッシュを利用していない理由

- ◆ 東京アメッシュを利用していない理由について、「別の気象情報を使用している」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「利用方法がわからない」が 24.2%、「必要性が無い」が 10.4%となった。
- ◆ 男女別にみると、「別の気象情報を使用している」では男性が 50.3%、女性が 52.6%となり、男女間で大きな差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「別の気象情報を使用している」では 30 歳代が 56.8%と最も高く、次いで 20 歳代が 52.9%、60 歳代が 52.8%となった。
- ◆ 地区別にみると、「別の気象情報を使用している」では 23 区部が 50.9%、多摩地区が 52.2%となり、地区の違いで顕著な差は見られなかった。

Q 2 0 上記 Q 1 8 で、「2」及び「3」を選択された方におたずねとお知らせをします。

あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか？

以下の選択肢の中から、該当する理由を一つだけお選びください。（単一回答）

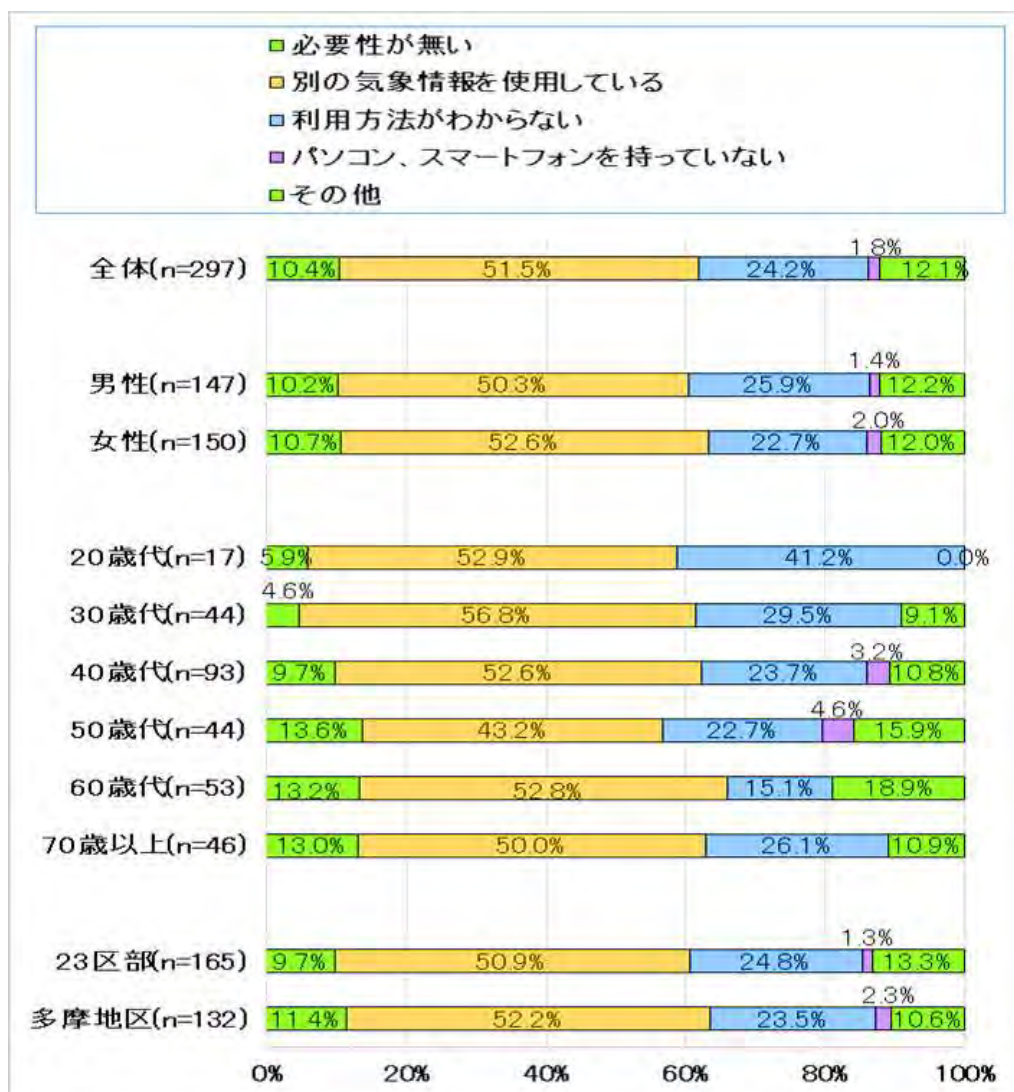


図 4-3-5 東京アメッシュを利用していない理由

表 4-3-5 東京アメッシュを利用していない理由（その他）

No	その他（記入例）	件数
1	知らなかった	8
2	必要性を強く意識していないためとみられる。	2
3	詳しい雨情報を知りたいと思うことがあれば利用すると思う。スマートフォンは持っていない。暇がない。	2
4	複雑すぎる。	2
5	東京アメッシュのことを忘れていました。	2
6	NHKの気象情報は毎朝見えています。	1
7	アメダスや国土交通省のレーダーなどを見ている。	1
8	テレビで確認している。	1
9	アプリをダウンロードしようと検索したが出てこずホームページを探したが見つけれなかった。	1
10	他のアプリを使用	1
11	アイコンがうまく取れないから。	1
12	インストールをしたが使っていない。	1
13	アプリが消えていた。	1
14	スマホアプリを増やしたくない。	1
15	前回のアンケートは回答できなかった。	1
16	変更したから	1
17	地震に対しては心配しているが水害に対してはそれ程心配していません。	1
18	現在よりも、今後の予測の方が知りたいため	1
19	危険な雨が降らない	1
20	事前に配信してほしい。	1
21	勤務先が都内でないため、実感がない。	1
22	文字表示が重なって見にくい。	1
計		33